

平安京左京北辺三坊四町跡

2002年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京北辺三坊四町跡

2002年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生き続けています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平米から、数千平米におよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび京都市立上京中学校校舎新築工事に伴います平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

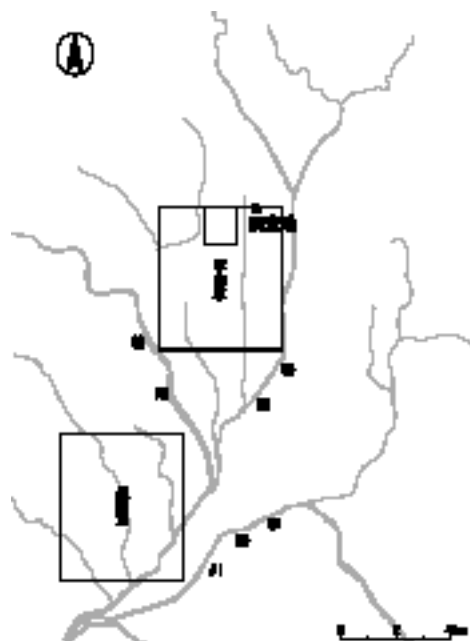
末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

平成14年9月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京左京北辺三坊四町跡
- 2 調査所在地 京都市上京区一条通室町西入東日野殿町395・396
- 3 委託者及び承諾者 京都市 代表者 京都市長 榎本頼兼
- 4 調査期間 2002年6月6日～2002年8月7日
- 5 調査面積 約182m²
- 6 調査担当職員 上村和直・小谷 裕
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「御所」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前） 平面直角座標系 （ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺構番号 通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺物番号 挿図・図版の瓦類・土器類の順に通し番号を付した。
番号は、本文・挿図・写真図版に共通である。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 整理作業 上村和直・小谷 裕
- 17 概報作成 上村和直、なお5-(2)は山本雅和の協力を得た。



(調査地点図)

目 次

| | |
|------------------|----|
| 1 . 調査経過 | 1 |
| 2 . 遺 跡 | 1 |
| (1) 位置と環境 | 1 |
| (2) 周辺の調査 | 2 |
| 3 . 遺 構 | 4 |
| (1) 層 序 | 4 |
| (2) 検出遺構の概要 | 5 |
| (3) 第 1 面の検出遺構 | 5 |
| (4) 第 2 面の検出遺構 | 10 |
| (5) 第 3 面の検出遺構 | 11 |
| 4 . 遺 物 | 11 |
| (1) 遺物の概要 | 11 |
| (2) 瓦 類 | 12 |
| (3) 堀45出土の土器類 | 22 |
| 5 . ま と め | 24 |
| (1) 遺跡について | 24 |
| (2) 中世の堀について | 26 |
| (3) 金箔瓦について | 29 |

図 版 目 次

| | | |
|------|----|--------------------|
| 図版 1 | 遺構 | 1 第 1 面全景 (東から) |
| | | 2 第 1 面石室群 (東から) |
| 図版 2 | 遺構 | 1 第 2 面全景 (東から) |
| | | 2 調査区南壁 (北東から) |
| 図版 3 | 遺物 | 出土軒丸瓦 1 |
| 図版 4 | 遺物 | 出土軒丸瓦 2 |
| 図版 5 | 遺物 | 出土軒平瓦 1 |
| 図版 6 | 遺物 | 出土軒平瓦 2 |
| 図版 7 | 遺物 | 出土道具瓦 |
| 図版 8 | 遺物 | 出土土器 |

挿 図 目 次

| | | |
|------|--------------------------------|----|
| 図 1 | 周辺調査地位置図 (1 : 2,500) | 3 |
| 図 2 | 調査前全景 (西から) | 3 |
| 図 3 | 調査状況 | 3 |
| 図 4 | 基本土層図 (南壁、 1 : 40) | 4 |
| 図 5 | 第 1 面遺構平面図 (1 : 150) | 6 |
| 図 6 | 第 2 面遺構平面図 (1 : 150) | 6 |
| 図 7 | 第 3 面遺構平面図 (1 : 150) | 7 |
| 図 8 | 石室20実測図 (1 : 20) | 8 |
| 図 9 | 石室22実測図 (1 : 20) | 8 |
| 図 10 | 石室23実測図 (1 : 20) | 9 |
| 図 11 | 柵列90実測図 (1 : 100) | 10 |
| 図 12 | 出土軒丸瓦拓影・実測図 1 (1 : 4) | 15 |
| 図 13 | 出土軒丸瓦拓影・実測図 2 (1 : 4) | 16 |
| 図 14 | 出土軒平瓦拓影・実測図 1 (1 : 4) | 17 |
| 図 15 | 出土軒平瓦拓影・実測図 2 (1 : 4) | 18 |
| 図 16 | 出土道具瓦拓影・実測図 1 (1 : 4) | 19 |
| 図 17 | 出土道具瓦拓影・実測図 2 (1 : 4) | 20 |
| 図 18 | 出土丸瓦・平瓦拓影・実測図 (1 : 5) | 21 |
| 図 19 | 出土土器類実測図 (1 : 4) | 23 |
| 図 20 | 調査地周辺主要遺構配置図 (1 : 1,200) | 25 |
| 図 21 | 調査地周辺掘検出地点分布図 (1 : 5,000) | 27 |
| 図 22 | 調査地周辺金箔瓦出土地点分布図 (1 : 10,000) | 30 |

表 目 次

| | | |
|-----|-----------------|----|
| 表 1 | 遺構概要表 | 5 |
| 表 2 | 遺物概要表 | 12 |
| 表 3 | 軒丸瓦・軒平瓦分類表 | 14 |
| 表 4 | 調査地周辺掘検出地点一覧表 | 28 |
| 表 5 | 調査地周辺金箔瓦出土地点一覧表 | 31 |

平安京左京北辺三坊四町跡

1. 調査経過

調査に至る経過 調査地は、京都市上京区一条通室町西入東日野殿町395・396で、京都市教育委員会はこの地に所在する京都市立上京中学校の校舎新設工事を実施する計画をたてた。京都市埋蔵文化財調査センターは、この地が平安京に含まれ、周辺の調査から遺構が良好に残っていると予想したため、発掘調査の指導を行った。これを受けて、京都市教育委員会は、財団法人京都市埋蔵文化財研究所に発掘調査の委託を行った。

調査経過 調査は2002年6月6日から開始した。調査地対象範囲内には、北西部に旧校舎のコンクリート基礎および撤去時の攪乱が予想されたため、それを避けて逆L字形の調査区を設定した。

今回の調査では、平安時代の一条大路路面と南側溝・築地内溝と、それに面した宅地内遺構の検出、その後の当地の変遷を明らかにすることを目的とした。

調査は、江戸時代の遺構面（第1面、現地表下約1.4m）まで機械掘削し、その後手掘りで調査を行った。第1面調査終了後、桃山時代の遺構面（第2面、現地表下約2m）まで包含層を掘り下げ、堀などの遺構調査を行った。その後、遺物包含層を掘り下げ第3面とし、室町時代以前の遺構調査を実施した。各遺構面ごとに実測図と写真撮影により記録を行った。最後に断割により下層の堆積状況を確認し、断面写真撮影・実測などを行い、8月7日に調査を終了した。

なお、調査中の2002年8月3日には現地説明会（参加者約50名）を開催した。また、近隣の小学校・中学校の遺跡見学授業を随時実施し、調査成果の公表に努めた。

2. 遺 跡

(1) 位置と環境

調査地は、平安京の条坊では左京北辺三坊四町にあたる。四町は、北を一条大路（現一条通）、西を町尻小路（現新町通）、南を正親町小路（現中立売通）、東を室町小路（現室町通）に囲まれた町で、調査地はその北端中央部と一条大路路面に位置する。平安時代の当地域に関する文献史料は確認できず、居住者は不明である。『拾芥抄』左京図には「盛良」と記載されているが、三坊六町の藤原資良第の誤写であるとの説もあり、詳細は不明である。¹⁾

調査地周辺では、鎌倉時代から室町時代の遺構・遺物が多く検出され、活発に土地利用がなされていたことが窺えるが、当地域に関する文献史料も無い。

これ以降、当地域は室町通と町通を軸として発展した「上京」の町組みの南部に含まれる。

桃山時代には、調査地の西側に旧平安宮域（内野）北東部を中心として聚楽第が天正一五年（1587）に造営され、東側には土御門邸を中心として御所が整備される。当地域は、聚楽第周辺に造られた大名や近習の屋敷地に含まれる。文禄四年（1595）七月二八日には、聚楽第が破却されるが、これらの屋敷も同様に破却されたと推定されている。

江戸時代前半の様子は不明であるが、後半には調査地付近に寿命院が造られる。明治時代には学校が造られ、後に上京中学校となり現在に至る。

（２）周辺の調査

調査地周辺で行われた、これまでの主要な発掘調査・試掘立会調査の概要を平安京の条坊を準用して述べる。（図１）

北辺三坊 四町では、上京中学校内で３回の調査が実施された。南東部の１次調査（図１－１）では、弥生時代から古墳時代の包含層・遺構、平安時代の柱穴・土壇、中世の柱穴・土壇・井戸、近世の堀・土壇などを検出した²⁾。南西部の２次調査（図１－２）では、平安時代から鎌倉時代の柱穴・土壇、中世の土壇、近世の井戸などを検出した³⁾。中央部の３次調査（図１－３）は、南（１区）・北（２区）・東（３区）に分かれる。１区では平安時代の土壇、室町時代後期の溝、桃山時代の堀・土壇・柵列を検出した。２区では室町時代後期の柵列、桃山時代の堀・柵列を検出した。３区では、前面に堀状の堆積を確認した。桃山時代の堀・土壇から金箔瓦が大量に出土した⁴⁾。四町北側の一条大路の調査（図１－４）で、中・近世の遺構を検出した⁵⁾。また、調査地周辺の室町通・一条通（新町～烏丸間）・上長者町通（新町～烏丸間）・新町通（中立売～上長者町間）では立会調査（図１－５）が行われている⁶⁾。

一町では、南東部で２回の調査（図１－６・７）が実施された。調査では、平安時代から鎌倉時代の土壇・流路・柱穴、鎌倉時代から室町時代の町小路路面・堀・柵列・石室・土壇、桃山時代から江戸時代の柱穴・井戸、江戸時代の井戸・土壇・溝・柱穴などを検出した⁷⁾。

五町では、北西部の調査（図１－８）で、中近世の遺構が検出された⁸⁾。南西部の調査（図１－９）で、中近世の柱穴・溝、江戸時代の井戸・土壇を検出した⁹⁾。中央部の調査（図１－１０）で、平安時代の井戸・土壇、桃山時代の井戸・溝・土壇、江戸時代の建物・井戸・溝・石室を検出した¹⁰⁾。南東部の調査（図１－１１）で、中近世の遺構を検出した¹¹⁾。五町北側の一条大路の調査（図１－１２）では、平安時代包含層、室町時代から江戸時代の堀を検出した¹²⁾。

六町では、中央部の調査（図１－１３）で、弥生時代の遺構、平安時代の溝・井戸・建物・土壇、鎌倉時代から室町時代の土壇・井戸、桃山時代の土壇・石組遺構、江戸時代の井戸・土壇を検出した¹³⁾。南西部の調査（図１－１４）で、中近世の遺構を検出した¹⁴⁾。

七・八町では、東辺で烏丸線地下鉄工事に伴う調査（図１－１５、 11・８・２６・１２・１６地点）が行われ、平安時代の一条大路に伴う遺構、桃山時代の烏丸通に伴う遺構などを検出した¹⁵⁾。

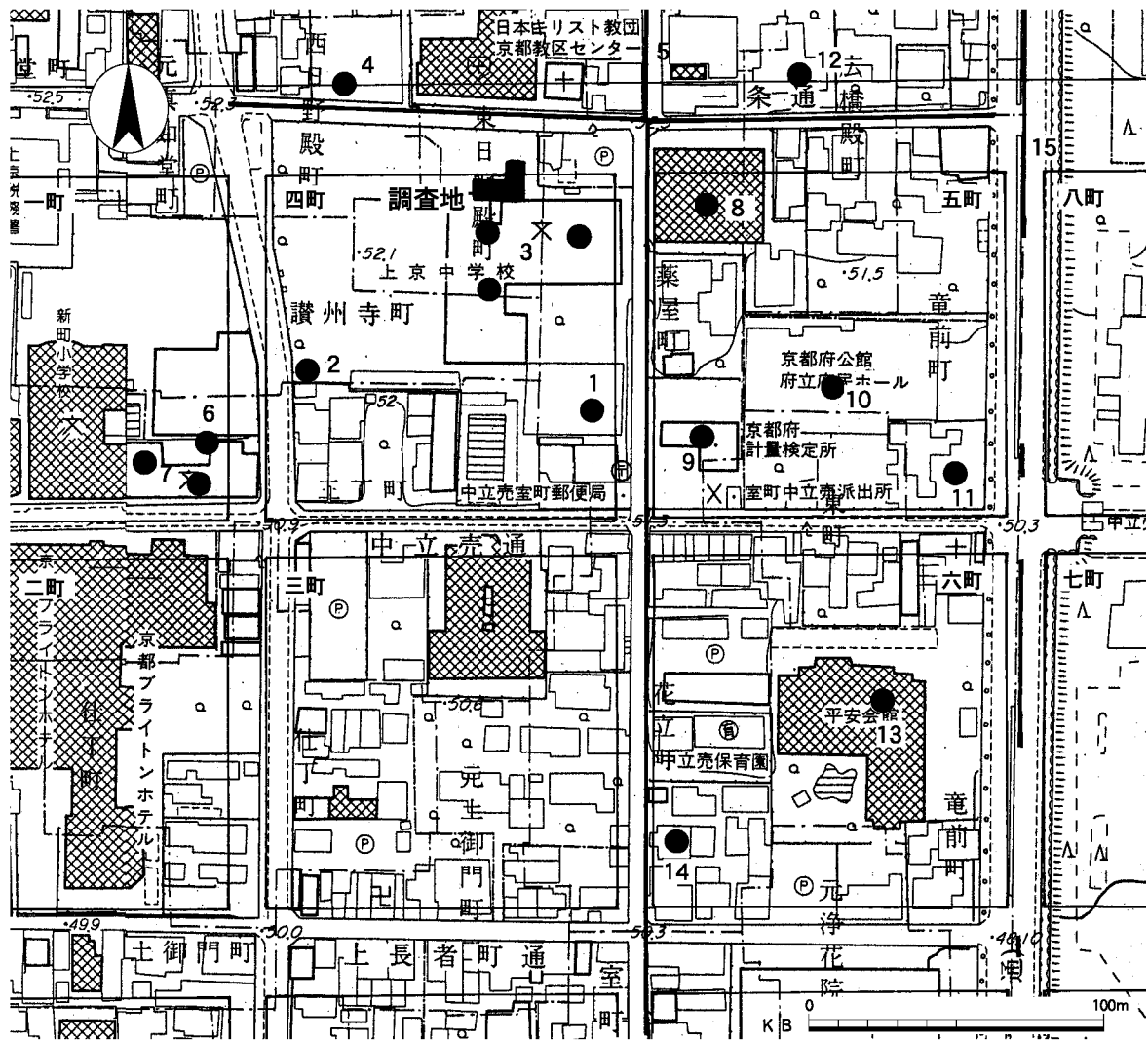


図1 周辺調査地位置図 (1 : 2,500)



図2 調査前全景 (西から)



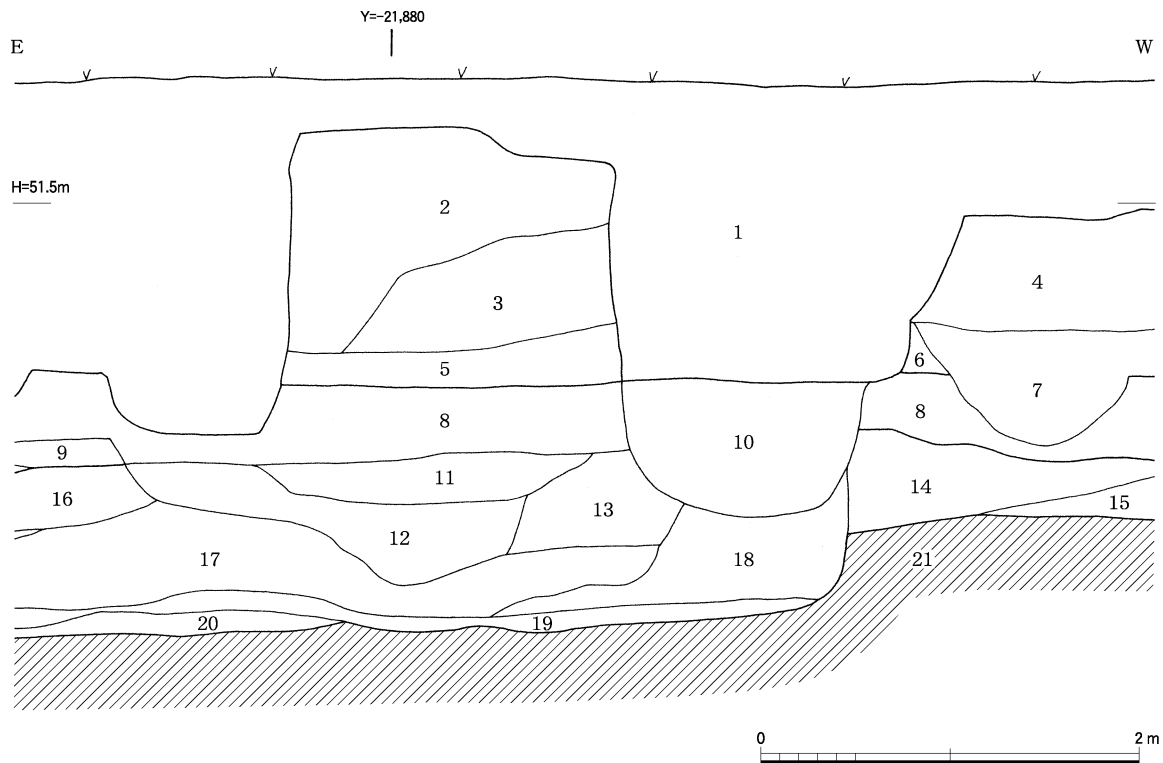
図3 調査状況

3. 遺 構

(1) 層 序 (図4)

層序 調査地は、場所によって堆積状況が異なるが、基本的層序は地表面から約1.3mまでがグラウンド整地層・新旧校舎建設などに伴う整地層（第1層）および、近世遺物包含層（第2層）で、第3層は黒褐色泥砂層を中心とする層（厚さ0.4~0.6m）で、第4層は暗褐色泥砂層を中心とする層（厚さ0.5~0.3m）である。その下は、第5層褐色砂泥層（厚さ0.5m）・第6層褐色泥礫層で、いずれも無遺物層の地山である。

調査は、第3層上面を第1面、第4層上面を第2面、第5層上面を第3面として、3段階に分けて調査を行った。第1面は江戸時代、第2面は桃山時代から江戸時代、第3面は平安時代から室町時代の遺構が主体をなす。第3面の検出高は北端の方が南端より0.3m高く、北側から南に若干傾斜する地形である。第1・2面も同様に北側が高く南に傾斜する。第3面上面の標高は、調査区中央で49.8mである。



- | | | |
|----------------------|------------------|-------------------|
| 1 現代整地層・近世遺物包含層……第1層 | 8 黒褐色泥砂 ……第3層 | 15 暗褐色粘質土 ……第4層 |
| 2 黒色泥砂 | 9 にぶい黄褐色泥砂 ……第4層 | 16 黒色泥砂（堀45上層） |
| 3 黒色泥砂 | 10 黒色泥砂（石室20） | 17 黒褐色粘質土（堀45中層） |
| 4 褐色泥砂 | 11 黒褐色泥砂（石室23） | 18 黒褐色砂泥（堀45中層） |
| 5 黒褐色砂泥 | 12 黒色泥砂（石室23） | 19 黒褐色泥土（堀45下層） |
| 6 褐色泥砂 | 13 黒色粘質土（石室23） | 20 黒褐色泥土（堀45下層） |
| 7 にぶい黄褐色砂泥（土壌19） | 14 暗褐色泥砂 ……第4層 | 21 褐色砂泥（地山） ……第5層 |

図4 基本土層図（南壁、1：40）

(2) 検出遺構の概要

調査で検出した遺構は、第1面45基、第2面28基、第3面11基、総計84基である。時期は、桃山時代から江戸時代と室町時代以前に分かれ、江戸時代以降の遺構が大半を占め、他の時代の遺構は少ない。

第1面上面では、全面で江戸時代の遺構を検出した。土壙・石室・柱穴などの遺構があるが、かなり重複している上、調査区が狭いこともあって、規模や平面形は明らかでないものが多い。土壙は調査区全域で検出し、多くはゴミ処理用の穴と推定できる。石室は3基検出した。柱穴は全面で検出したが、まとまらず建物の復元には至っていない。また、調査区北部では部分的に黄色粘土の堅く締まった面(図5のアミかけ部分)を確認した。

第2面上面では、桃山時代から江戸時代の遺構を検出した。調査区中央で大規模な堀を検出し、両側では土壙・柱穴などがあるが、規模や平面形は明らかでない。土壙は調査区全域で検出し、柱穴は少数検出した。

第3面上面では、平安時代から室町時代の遺構を、調査区北部と南西部でごく少数検出した。土壙・溝などの遺構がある。

以下、各遺構面に分けて主要な遺構を報告する。なお、各遺構および出土遺物の時期は、平安京・京都 期¹⁶⁾～ 戢期編年案に準拠する。

(3) 第1面の検出遺構(図5、図版1)

土壙15 調査区南西部で検出した土壙で、北側一部は攪乱され、南側は調査区外である。平面形は東西3.4m・南北1.8m以上の不定形で、深さは0.5mである。埋土は、灰黄褐色泥砂で礫を多く含み、土師器皿、陶器甕・壺、施釉陶器皿、塩壺などが出土した。時期は、 期古段階である。

石室20(図8) 調査区西部で検出した石室で、掘形南側は調査区外である。掘形平面形は東西2.9m・南北2.7m以上の円形で、深さは1.2mである。底部より0.5mから上に一辺30cm程度の河原石を小口面を内側に向けて積む。内法は径1.7mである。石は2段程度残存する。石組みは井戸

表1 遺構概要表

| 時 期 | 遺 構 |
|------|---|
| 平安時代 | 溝61・土壙77 |
| 鎌倉時代 | 土壙・柱穴 |
| 室町時代 | 土壙39・土壙76・土壙81・柱穴 |
| 桃山時代 | 堀45・土壙56・土壙57・柵列90・柱穴 |
| 江戸時代 | 土壙15・石室20・石室22・石室23・土壙25・土壙28・土壙31・土壙34・土壙51・柱穴 |

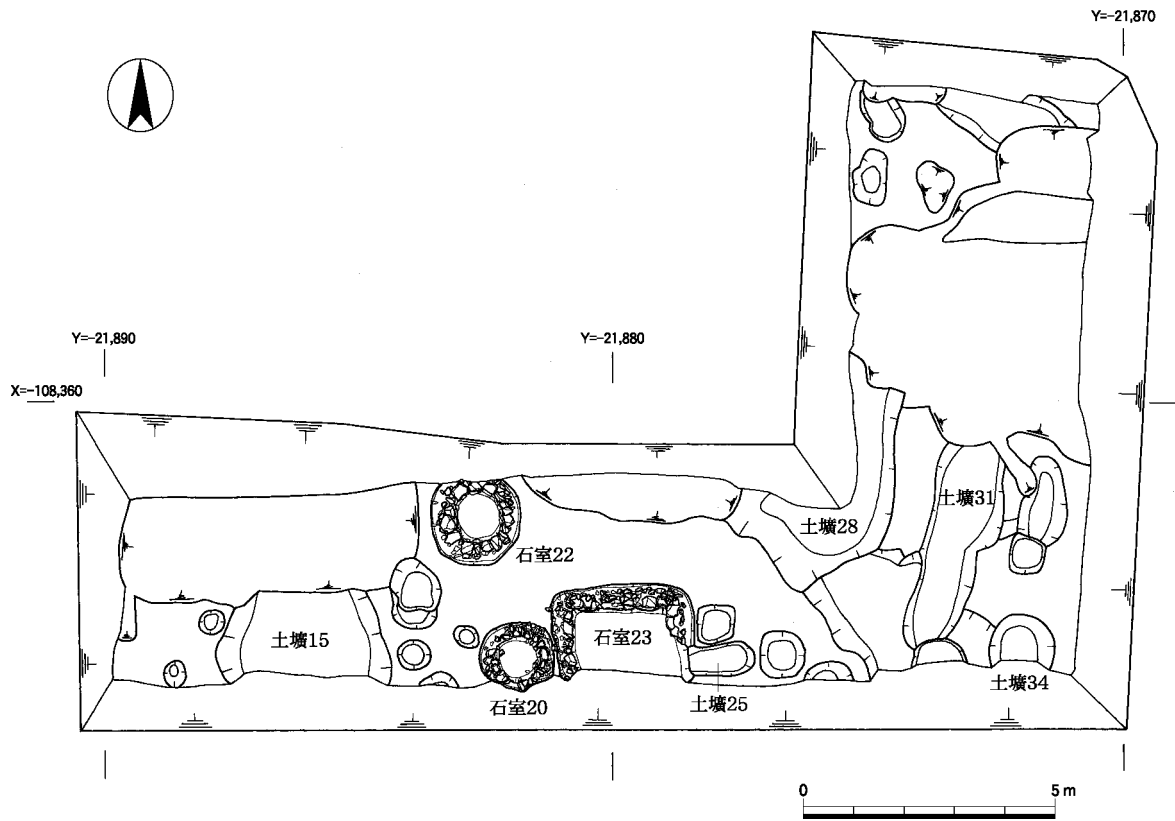


图5 第1面遺構平面図(1:150)

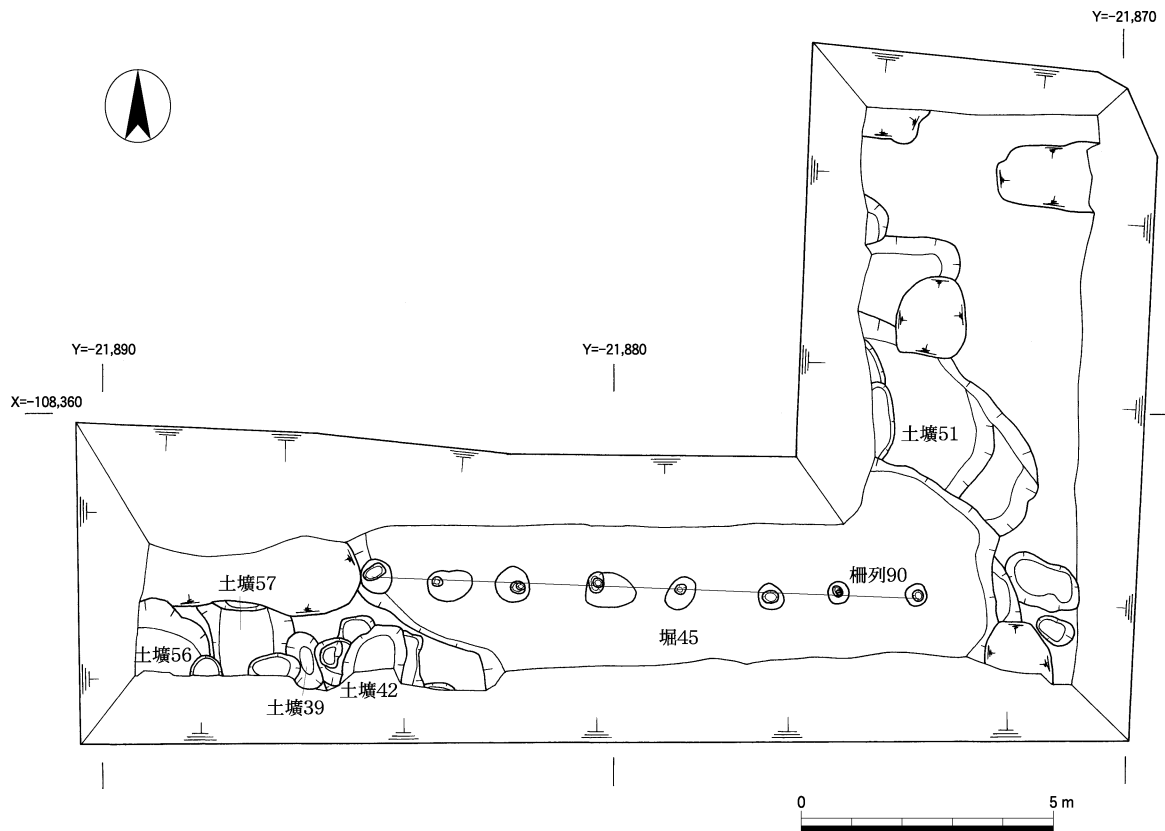


图6 第2面遺構平面図(1:150)

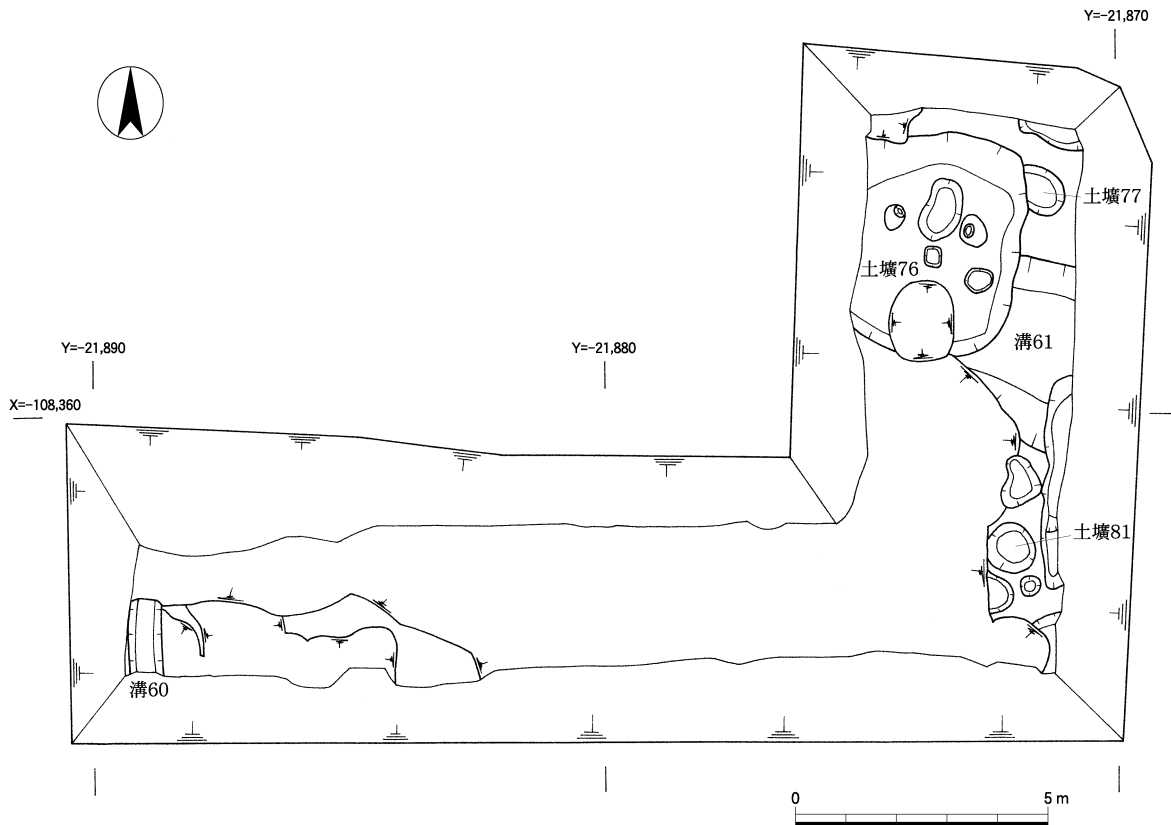


図7 第3面遺構平面図(1:150)

と同様であるが、底部が湧水層に達していないので、石室22と共に石室と推定した。埋土は黒色砂泥で炭・礫を含み、土師器皿、陶器甕・播鉢、施釉陶器椀、砥石などが出土した。時期は、
～ 期である。

石室22(図9) 調査区西部で検出した石室で、掘形北側は調査区外である。掘形平面形は東西3.5m・南北3.2m以上の楕円形で、深さは1.3mである。底部から一辺30～50cm程度の河原石を小口面を内側に向けて楕円形に積む。内法は南北2.1m・東西1.9mである。石は4段程度残存する。石組み内の埋土は褐灰色砂泥で礫を多く含み、土師器皿、陶器甕・播鉢、施釉陶器皿、染付椀などが出土した。掘形埋土は黒褐色砂泥で、土師器皿・鍋、施釉陶器椀などが出土した。時期は、
いずれも 期である。

石室23(図10) 調査区西部で検出した石室で、掘形南側は調査区外である。掘形平面形は東西5.8m・南北3.8m以上の隅丸長方形で、深さは1.5mである。底部より0.1mから上に一辺20～50cm程度の河原石を小口面を内側に向けて積む。内法は東西3.7m・南北2.2m以上である。石は3段程度残存する。埋土は灰褐色砂泥で、土師器皿、陶器甕、施釉陶器椀・皿、瓦などが出土した。時期は、
期である。

土壙25 調査区中央部で検出した土壙で、西部は石室23に壊される。平面形は東西1.3m以上・南北0.6mの楕円形に復元でき、深さは0.4mである。埋土は褐灰色泥砂で炭を多量に含み、土師器皿・鍋・釜、陶器甕、施釉陶器椀・皿、青磁椀などが出土した。時期は、
期古段階である。

土壙28 調査区中央部で検出した土壙で、北西部は調査区外である。平面形は一辺約3.5mの不

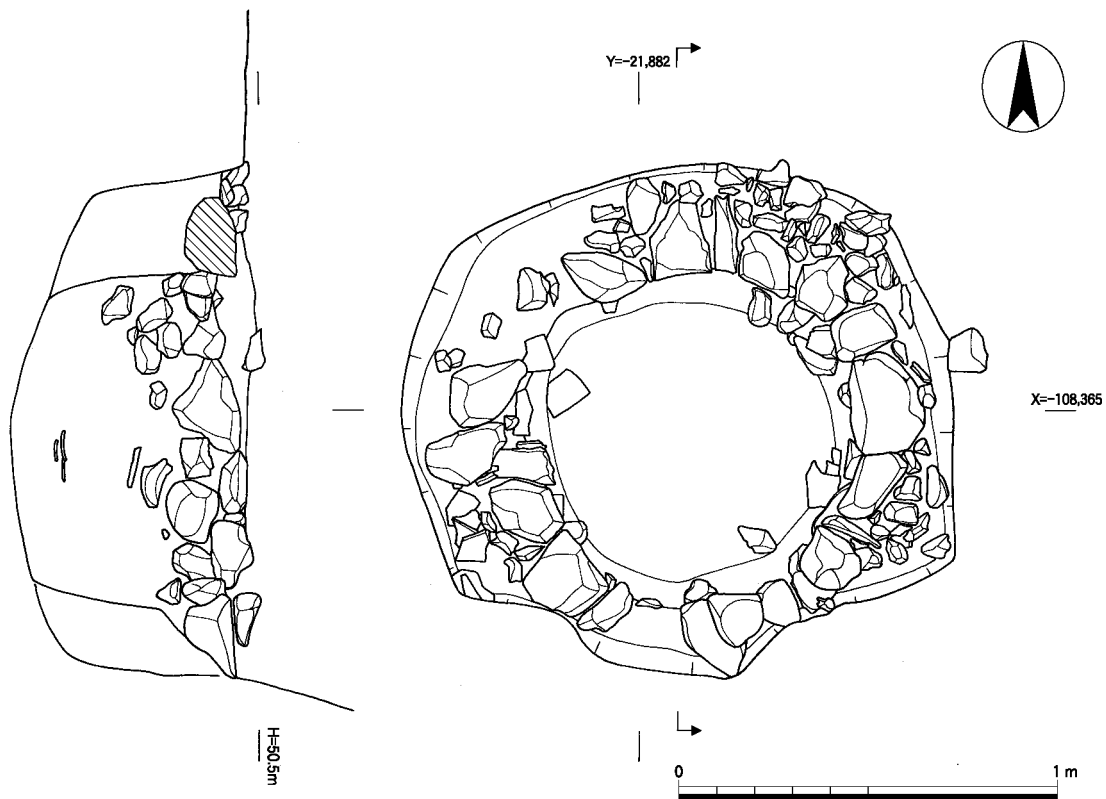


图8 石室20实测图 (1 : 20)

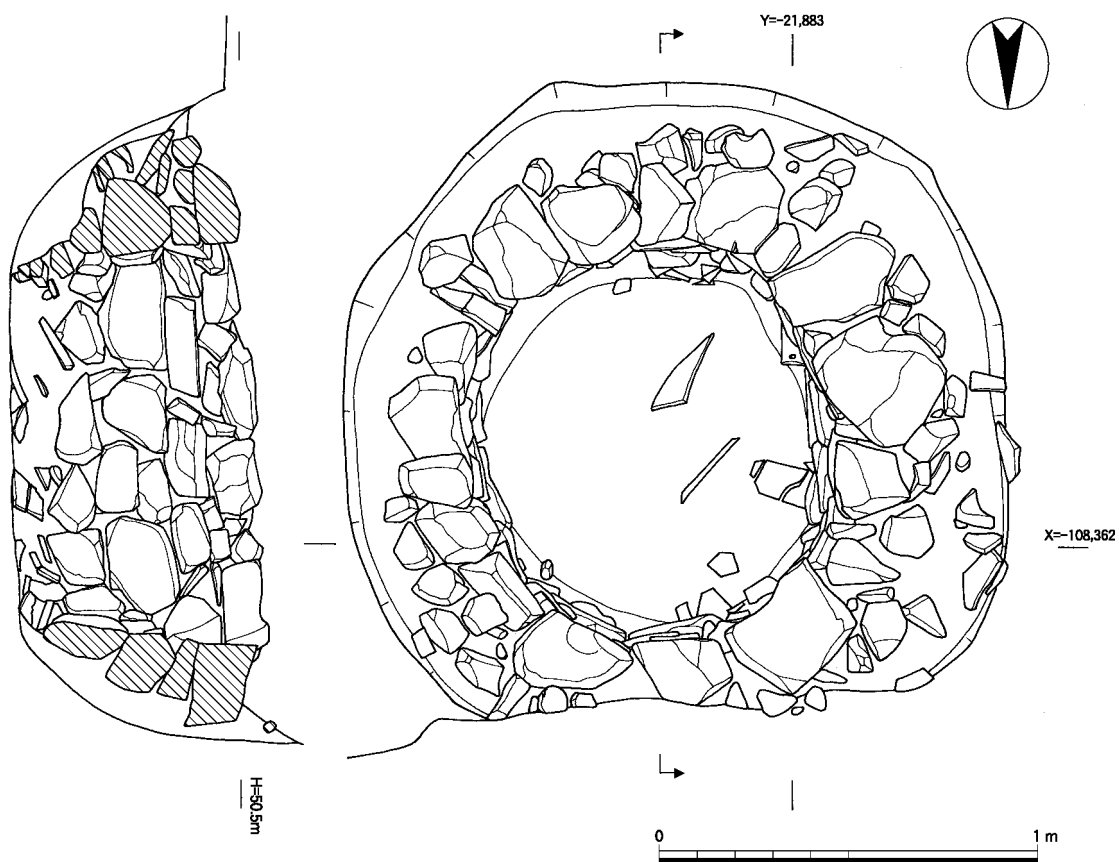


图9 石室22实测图 (1 : 20)

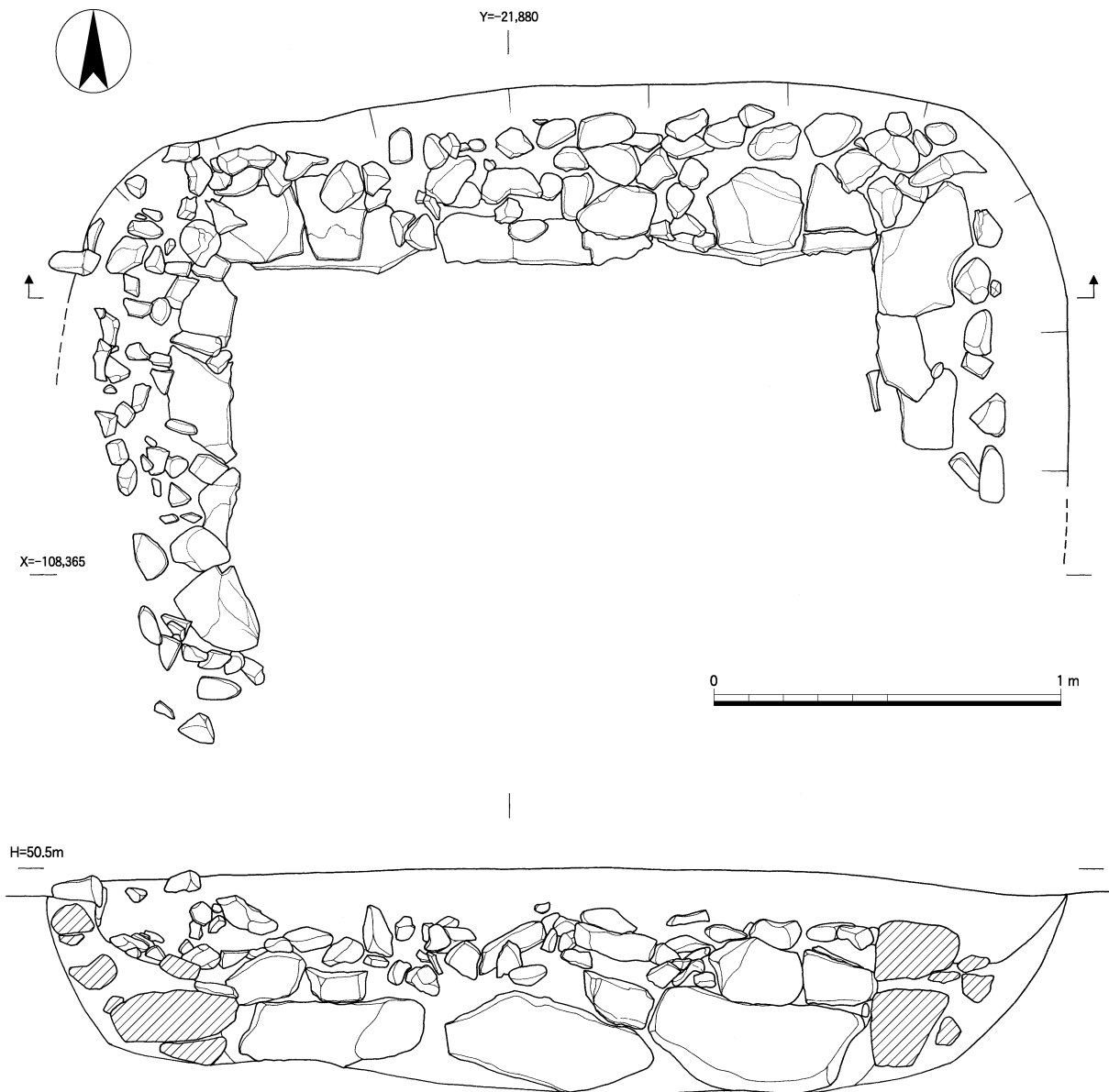


図10 石室23実測図(1:20)

定形で、深さは0.94mである。埋土は黒褐色砂泥で焼土・炭を多量に含み、土師器皿、陶器甕・播鉢、施釉陶器椀・皿、国産染付椀、塩壺などが出土した。時期は、 期新段階である。

土壙31 調査区中央部で検出した土壙で、南北両端は攪乱される。平面形は幅約1.3mで4.5m検出し、深さは0.54mである。埋土は褐灰色砂泥で、土師器皿、陶器甕・播鉢、施釉陶器椀、染付などが出土した。時期は、 期である。

土壙34 調査区南東部で検出した土壙で、南部は調査区外である。平面形は径約1.2mの円形に復元でき、深さは0.9mである。埋土は褐灰色砂泥で炭層がレンズ状に堆積し、土師器皿・鍋、瓦器鉢、陶器播鉢、施釉陶器皿、青磁椀、塩壺、瓦などが出土した。時期は、 期古段階である。

(4) 第2面の検出遺構(図6、図版2)

土壙39 調査区南西部で検出した土壙で。平面形は東西0.6m・南北1mの楕円形で、深さは0.3mである。埋土は灰黄褐色砂泥で焼土・炭を多く含み、土師器皿、陶器甕などが出土した。時期は、～期である。

土壙42 調査区南西部で検出した土壙で、南側は調査区外である。平面形は東西幅1.2mで、深さは0.8mである。埋土は黒褐色砂泥で、土師器・陶器などが出土した。

堀45・柵列90(図11) 調査区中央で検出した素掘りの堀で、南側は南北方向であるが、北側はゆるやかに西側へ屈曲する。南北両側は調査区外である。底部はほぼ平坦で、断面形は逆台形で、規模は東西幅10m・深さ約1.5mである。埋土は3層に分かれ、上層は黒褐色泥砂で土器類・瓦・炭を多く含む層、中層は褐色砂泥で瓦を大量に含む層、下層は灰色泥土で遺物が少ない。底部には、微砂層・粘土層などは堆積しておらず、明瞭な水流の痕跡はない。堆積の状況から、一気に大量の廃棄瓦を使用して埋め戻し、凹みとして残った部分に火災などのゴミの処理によって整地した状況が窺える。各層に含まれる遺物は時期差がほとんど認められない。期古段階の遺物が出土した。調査区内での堀の中心座標は、X=-108,364.8、Y=-21,877.4である。

なお、堀の底部で東西方向の掘立柱柵列90を検出した。検出した柱穴は8基で、西側でやや北に振れる。柱間隔は西から1.2・1.6・1.5・1.6・1.8・1.35・1.6mと不規則で、東端柱から堀の東岸までは1.5mである。柱穴掘形は楕円形または円形で径0.4～0.8m・深さ約0.5mで、柱の径は約0.15mである。

土壙51 調査区北部で検出した土壙で、西側は調査区外で南側は堀45で攪乱される。平面形は南北3.5m以上・東西2.5m以上の不定形で、深さは0.3mである。埋土は灰黄褐色砂泥で、土師器皿・陶器甕などと、大量の瓦が出土した。時期は、期古段階である。

土壙56 調査区南西部で検出した土壙で、南・西側は調査区外である。平面形は東西1.5m以上で、深さは0.4mである。埋土は黒褐色砂泥で焼壁を含み、土師器皿、陶器甕、瓦などが出土した。

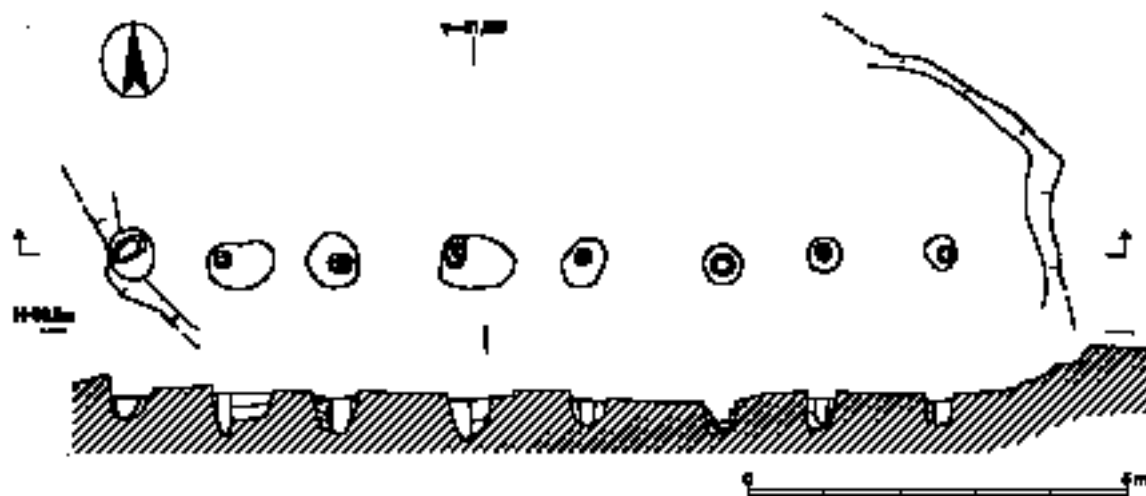


図11 柵列90実測図(1:100)

時期は、 期である。

土壙57 調査区南西部で検出した土壙で、北側は攪乱され南側は調査区外である。平面形は東西約1.6mで、深さは0.5mである。埋土は暗褐色砂泥で、土師器皿、青磁椀などが出土した。時期は、 期である。

(5) 第 3 面の検出遺構 (図 7、図版 2)

溝60 調査区南西部で検出した素掘り南北溝で、北側は攪乱され、南側は調査区外である。断面形は逆台形で幅0.65m・深さ0.2mである。埋土は黄灰色砂泥で、土師器皿などが出土した。時期は不明である。なお、中心座標はX=-108,365.1、Y=-21,888.9である。

溝61 調査区北部で検出した素掘りの東西溝で、東西両側は調査区外で南側は土壙51に攪乱される。断面形は浅いU字形で、幅約5.5m・深さ0.4mである。埋土は灰黄褐色砂泥で、土師器皿、白色土器高杯、緑釉陶器椀などが出土した。時期は、 ~ 期である。なお、中心座標はX=-108,359.6、Y=-21,870.9である。

土壙76 調査区北東部で検出した土壙で、西側は調査区外である。平面形は南北4.4m・東西3.4m以上の不定形で、深さは0.34mである。埋土は褐灰色砂泥で、土師器皿・高杯、瓦器鉢、陶器甕などが出土した。時期は、 期である。

土壙77 調査区北東部で検出した土壙で、西側は土壙76に攪乱される。平面形は南北約1mの不定形で、深さは0.1mである。埋土は黒褐色砂泥で、土師器皿、緑釉陶器椀などが出土した。時期は、 期である。

土壙81 調査区南東部で検出した土壙である。平面形は径0.95mの円形で、深さは0.2mである。埋土は黄灰色砂泥で、土師器皿、陶器甕などが出土した。時期は、 ~ 期である。

4 . 遺 物

(1) 遺物の概要

遺物は整理箱にして175箱出土した。種類には土器類、瓦類、石製品、土製品などがあり、瓦類が多く、他の遺物は少ない。遺物の時期は、古墳時代から江戸時代にわたるが、桃山時代・江戸時代の遺物が大半を占め、他の時代の遺物はごくわずかである。

古墳時代の遺物には土師器甕・高杯、須恵器甕などがあり、後世の遺構からごく少量出土した。いずれも細片で損傷が進んだ破片が多い。

平安時代の遺物には、土師器椀・高杯、須恵器甕、緑釉陶器椀、軒丸瓦などがある。軒丸瓦(図12 - 1)は土壙48から出土した。産地不明である。

鎌倉時代・室町時代の遺物には土師器・陶器などがある。土壙39からは土器類がややまとまって出土したが、他の遺構・包含層からの遺物は小破片が多く、量も少ない。

桃山時代の遺物には瓦類・土器類があり、瓦類が大半を占める。遺物は各遺構から出土したが、特に堀45からまとめて出土した。

江戸時代の遺物には瓦類・土器類があるが、土器類が大半を占める。特に堀45上層・土壌・包含層などからまとめて出土した。

以下、瓦類は桃山時代のもの中心に報告し、土器類は堀45の一括遺物を報告する。

(2) 瓦類 (図12~18、図版3~7)

桃山時代の瓦類には、軒丸瓦7種164点・型式不明51点・計215点、軒平瓦17種124点・型式不明62点・計186点、鳥衾瓦5点、薨瓦3点、鯨瓦1点、棟端飾瓦14点、方形飾瓦18点、不明飾瓦12点、丸瓦、平瓦、面戸瓦¹⁷⁾がある。瓦類は大半が堀45から出土し、他に第1・2面の土壌や包含層から出土した。

軒丸瓦(図12・13-2~21) 軒丸瓦は、紋所文(1類)と巴文(2~6類)に大別できる。紋所文は全て桐文で、さらに範の違いによってA~Eに分類できる。巴文は全て三巴文で、巴文の巻き込み方向や圏線・珠文の有無・尾の接し方で分類できる。さらに範の違いによってA以下に細分できる(表3)。各種類・型式毎の点数は、6-K類(19)が20点の他は、1型式1~5点程度と少ない。

瓦当部成形は、瓦当部裏面上端よりやや下に丸瓦を当て、粘土を付加して接合する。接合粘土は少ない。瓦当部の接合面に斜方向のキザミをヘラで施すものが多い。丸瓦の先端は加工しない。瓦当部裏面は平坦で不定方向のナデを施すが、下端に円周状の強いナデを施すものが多い。

表2 遺物概要表

| 時代 | 内容 | コンテナ箱数 | Aランク点数 | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|---------------|----------------------------|--------|--|--------|--------|
| 古墳時代以前 | 土師器、須恵器 | 0箱 | | 0箱 | 0箱 |
| 平安時代 | 土師器、須恵器、緑釉陶器 | 0箱 | | 0箱 | 0箱 |
| | 軒丸瓦 | 0箱 | 軒丸瓦1点 | 0箱 | 0箱 |
| 鎌倉時代 ~室町時代 | 土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器 | 0箱 | | 0箱 | 0箱 |
| 桃山時代 | 土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器 | 5箱 | | 5箱 | 0箱 |
| | 軒丸瓦、軒平瓦、鳥衾瓦、鯨瓦、薨瓦、飾瓦、平瓦、丸瓦 | 39箱 | 軒丸瓦20点、軒平瓦28点、鳥衾瓦1点、鯨瓦1点、薨瓦1点、飾瓦8点、平瓦2点、丸瓦2点 | 26箱 | 0箱 |
| 江戸時代 | 土師器、焼締陶器、施釉陶器、磁器、石製品 | 131箱 | 土師器15点、瓦器1点、焼締陶器3点、施釉陶器16点、磁器3点 | 129箱 | 0箱 |
| | 軒丸瓦、軒平瓦 | 0箱 | | 0箱 | 0箱 |
| 計 | | 175箱 | 102点(15箱) | 160箱 | 0箱 |

側面上半は縦ナデ・下半横ナデである。周縁上面はナデを施すが、ヘラミガキを施すものもある。周縁外側端部をヘラで面取りするものもある。瓦当面に離れ砂が付着したものは少ない。瓦当范型はB型である。玉縁部に釘穴を付けるものもある。

胎土は、細砂を少量含む精良な粘土である。焼成は堅く焼けしまり、灰色を呈する。表面は焼成最終段階でいぶし焼きを行い、黒灰色を呈する。胎土・焼成は他の種類の瓦も同様である。

軒平瓦（図14・15 - 22～49） 文様は外向唐草文のみで、中心飾りが桐葉のもの（1類）、花形のもの（2類）、宝珠のもの（3～5類）、唐草が交叉するもの（6類）、星形のもの（7類）、葉形のもの（8～15類）、房形のもの（16・17類）に分かれ、唐草の反転は1～4転に分かれる。さらに范の違いによってA以下に細分できる（表3）。各種類・型式毎の点数は、16類（48）が25点の他は、1型式1～10点程度と少ない。

瓦当部は段顎で、平瓦広端部凸面に顎部を貼り付けて接合する。平瓦凸面の接合面に横方向のキザミをヘラで施すものが多い。瓦当部凹面端部をヘラで横方向に削り面取りを施す。顎部凸面・裏面は横ナデである。顎部裏面屈曲部に凹型調整台の圧痕が付くものも少量見られる。周縁上面はナデを施すが、ヘラミガキを施すものもある。瓦当面に離れ砂が付着したものは少ない。瓦当范型はB型である。狭端部に釘穴を付けるものもある

また、軒平瓦で両側面に縦棧が付いたものが少量見られる。

鳥衾瓦（図16 - 50） 鳥衾瓦は、全て右巻き込み三巴文で、尾の接し方で3種に細分できる。顎部は長く、筒部は短い。筒部は楕円形である。瓦当部成形は、瓦当部裏面に筒瓦をあて、雁振瓦に接続する。瓦当部側面から筒部は縦ナデ、後縦ヘラミガキである。雁振瓦は凹面布目、凸面縦ヘラミガキである。

薨瓦（図16 - 51） 文様は木瓜文である。瓦当部は凹面となり、外縁は無い。瓦当部成形は、瓦当部裏面上端に丸瓦を押し当て、粘土を付加して接合する。瓦当部側面上半は縦ナデ・下半横ナデ、裏面ナデである。

鯪瓦（図16 - 52） 尾部が出土した。成形は粘土板張り合わせで、外面はヘラで切り取って段差を付け、ナデ調整を施す。

棟端飾瓦（図16・17 - 53～55） 棟端飾瓦は風字形で、地板部の周囲に表裏両側に直立する周縁が巡るもの（53・54）と、周縁が無いもの（55）に大別できる。53は地板部表面に木の葉文、54は蕨状のレリーフを貼り付ける。周縁は無文である。下辺には割り込みがある。成形は、地板部の表裏両側に粘土帯を貼り付けて周縁とする。地板部の接合面にカキ目を施す。文様は切り抜いた粘土板を貼り付けて、ヘラで文様を付ける。周縁側面・上面・内面縦ナデ、地板部表面不定方向ナデ・裏面オサエである。55は地板部中央に穴をあけるもので、表面に文様を貼り付けるが、文様は不明である。成形は、地板部の表面に粘土部材を貼り付けて文様とする。地板部表面不定方向ナデ・側面ナデ・裏面オサエである。

方形飾瓦（図17 - 56～60） 横長長方形または、正方形の板状の飾瓦で、薄くてやや小型のもの（56・57）と、厚くてやや大型のもの（58～60）に分かれる。小型の文様は桐文で、細部によ

って分類できる。成形は范型により、側面は横ナデ・裏面ナデである。大型は文様不明である。成形は地板に粘土帯を貼り付け、側面は横ナデ・裏面ナデである。使用場所は不明である。

丸瓦（図18 - 61・62） 全て玉縁丸瓦で、大きさにより大型（幅16.5cm・長さ30cm、玉縁幅12.5cm・長4.5cm）と、小型（幅13.5cm・長さ23cm、玉縁幅11.5cm・長3cm）の2種類に分かれる。

成形は、粘土板一枚作りで、凹面に鉄線切り離し痕跡（コビキ法）（61）、または糸切り離し痕跡（62）が残り、後者が多い。切り離し痕跡の上に布目が残り、布には抜き縄（二つ螺旋）が付けられる。両側縁・広端縁・玉縁部端縁の内面にヘラで削り大きく面取りを施す。凸面は縦ナデで縦ヘラミガキを施すものもある。玉縁部は横ナデである。

平瓦（図18 - 63・64） 大きさにより、大型（幅26・27cm・長さ33cm）と、小型（幅19.8・21.5cm、長さ28cm）の2種類に分かれる。

成形は、粘土板一枚作りで、凸面はナデであるが、離れ砂が付着するものもある。凹面は縦ナデで縦ヘラミガキを施すものもある。側面は縦ナデである。

面戸瓦 面戸瓦は蟹面戸で、両側辺のふくらみは弱く、凹面側の削りは浅く広い。調整は丸瓦と同様である。

表3 軒丸瓦・軒平瓦分類表

| | | | | | | | | |
|-----|-----------------|---------|-----|---------|----------|------------------|--------------|------|
| 軒丸瓦 | 紋所文 — 三巴文 | 左巻き | 桐文 | — | 桐文 | (1類A~E) | (2~4) | |
| | | | 左巻き | — | 尾は圏線に接する | (2類A~C) | (5) | |
| | | | 左巻き | — | 尾は互いに離れる | (3類A・B) | (6) | |
| | | | 右巻き | — | 尾は圏線に接する | (4類A~F) | (7~12) | |
| | | | 右巻き | — | 尾は互いに接する | (5類A~H) | (13・14) | |
| | | | 右巻き | — | 尾は互いに離れる | (6類A~V) | (15~20) | |
| | | | 右巻き | — | 尾は互いに離れる | (7類) | (21) | |
| 軒平瓦 | 外行唐草文 中心飾り有り | 桐葉文 | — | 唐草は1回反転 | (1類) | (22) | | |
| | | 花形 | — | 唐草は3回反転 | (2類A・B) | (23・24) | | |
| | | 宝珠文 | — | 唐草は3回反転 | (3類) | (25) | | |
| | | | — | 唐草は2回反転 | (4類) | (30) | | |
| | | | — | 唐草は1回反転 | (5類) | (29) | | |
| | | 唐草が交叉 | — | 唐草は3回反転 | (6類) | (31) | | |
| | | 星形 | — | 唐草は4回反転 | (7類A・B) | (32) | | |
| | | 上向剣形五葉形 | — | 唐草は3回反転 | — | 唐草連続しない (8類A・B) | (26・27) | |
| | | 上向五葉形 | — | 唐草は3回反転 | — | 唐草連続しない (9類) | (28) | |
| | | | — | 唐草は2回反転 | — | 唐草連続する (10類A・B) | (33・34) | |
| | | 上向三葉形 | — | 唐草は3回反転 | — | 唐草連続する (12類A~F) | (37~39) | |
| | | | — | 唐草は3回反転 | — | 唐草連続しない (13類A・B) | (40・41) | |
| | | | — | 唐草は2回反転 | — | 唐草連続しない (14類A~D) | (42~44) | |
| | | 下向三房形 | — | 唐草は1回反転 | — | 唐草連続しない (15類A~F) | (45~47) | |
| | | | — | 唐草は3回反転 | — | 唐草連続する (16類) | (48) | |
| | | | | — | 唐草は2回反転 | — | 唐草連続する (17類) | (49) |

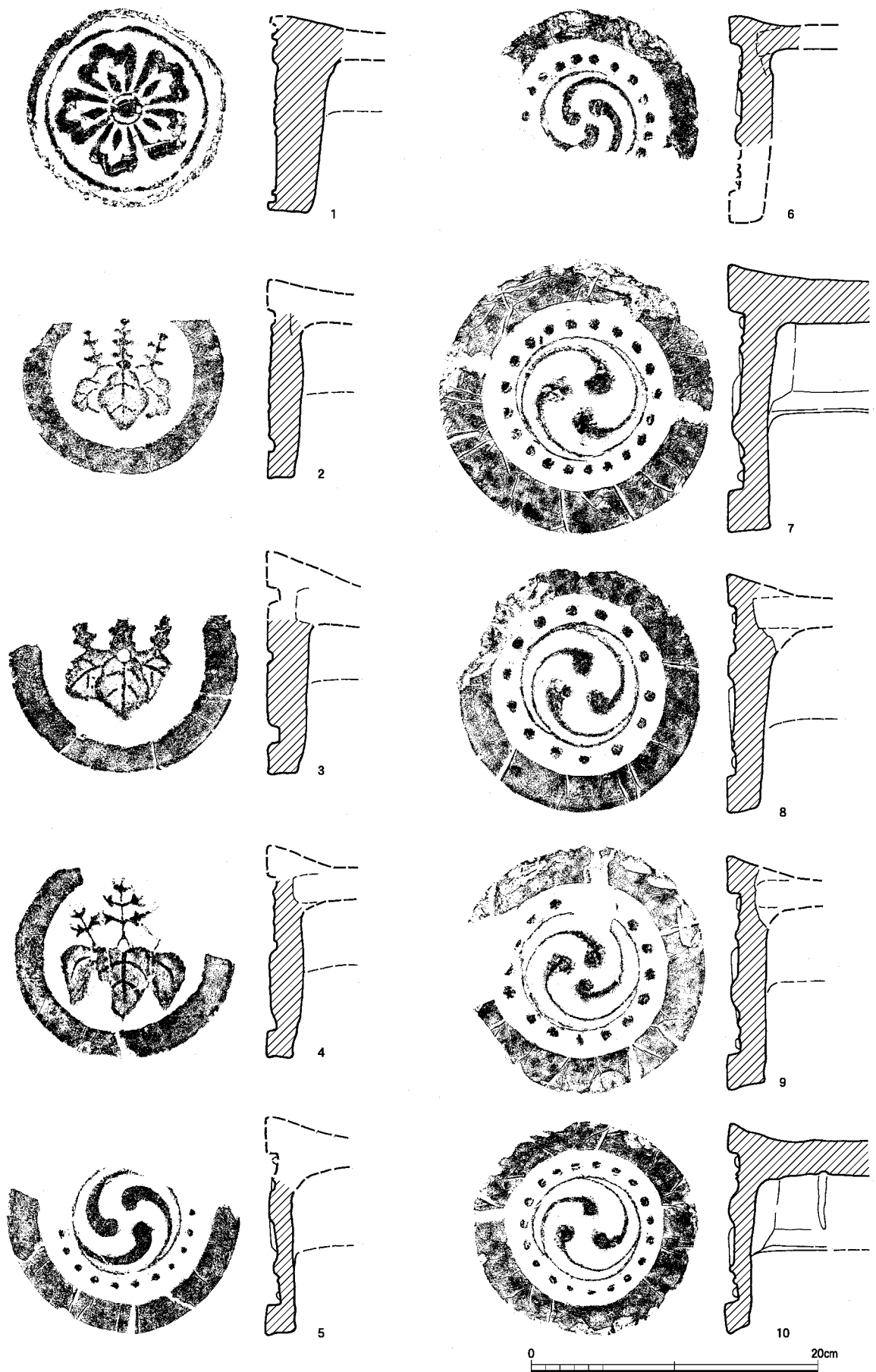


图12 出土軒丸瓦拓影·実測図1 (1:4)

2: 1-A類、3: 1-D類、4: 1-E類、5: 2-A類、6: 3-A類、7: 4-A類、8: 4-B類、9: 4-C類、10: 4-D類

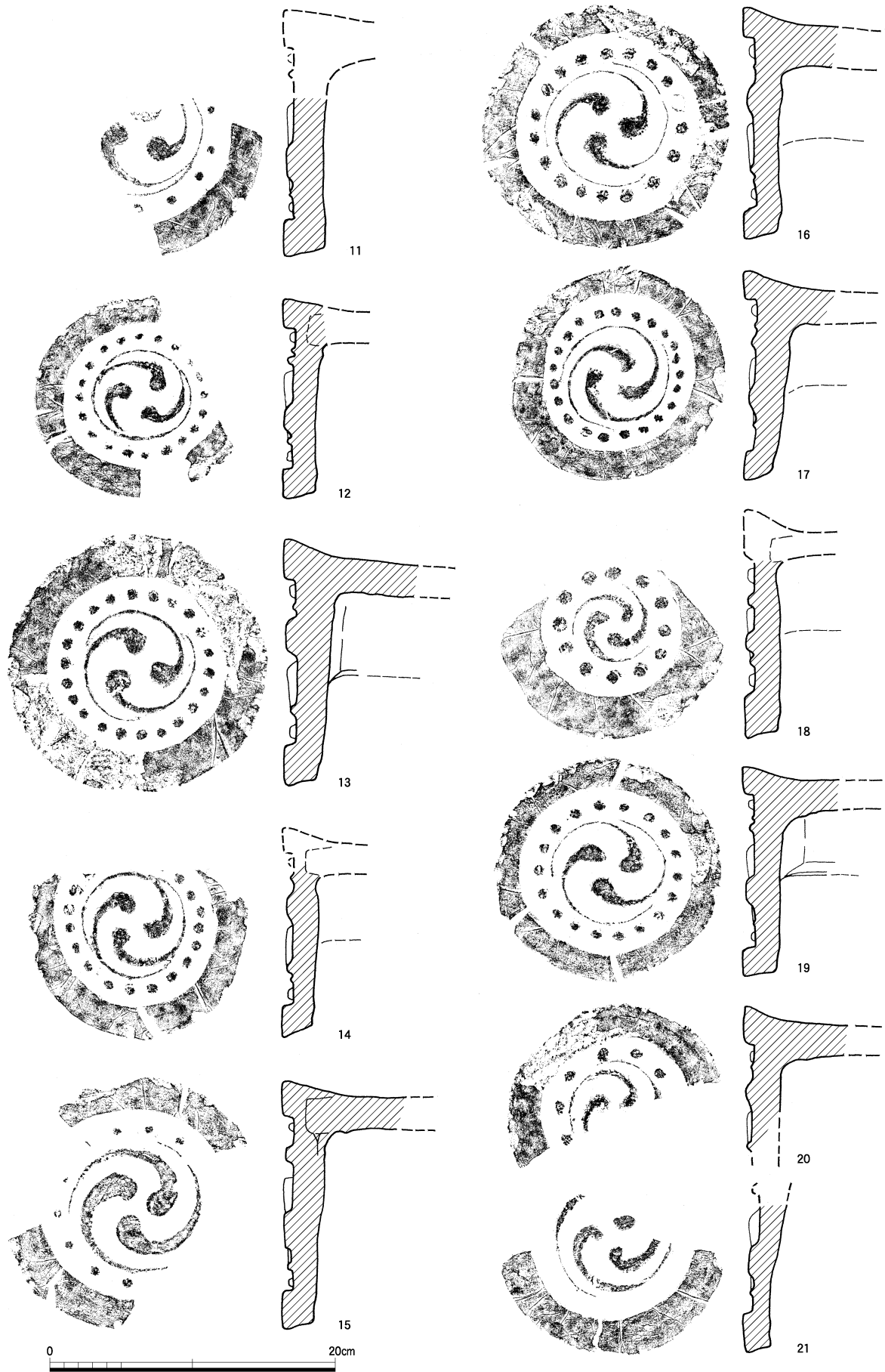


图13 出土軒丸瓦拓影・実測図2 (1 : 4)

11 : 4-E類、12 : 4-F類、13 : 5-A類、14 : 5-F類、15 : 6-A類、16 : 6-B類、17 : 6-I類、18 : 6-J類、
19 : 6-K類、20 : 6-U類、21 : 7類

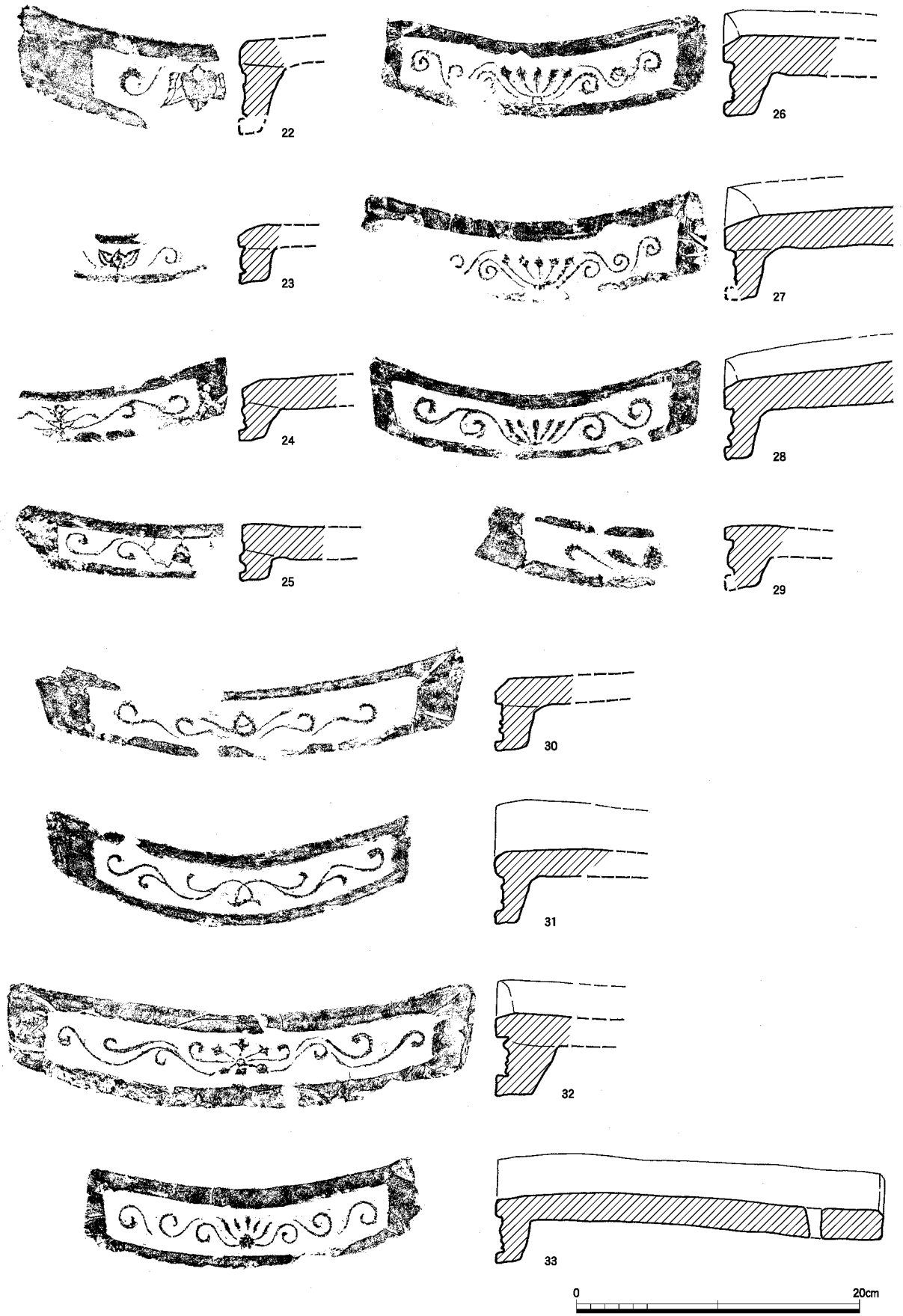


图14 出土軒平瓦拓影·实测图1(1:4)

22: 1類、23: 2-A類、24: 2-B類、25: 3類、26: 8-A類、27: 8-B類、28: 9類、29: 5類、30: 4類、
31: 6類、32: 7類、33: 10-A類

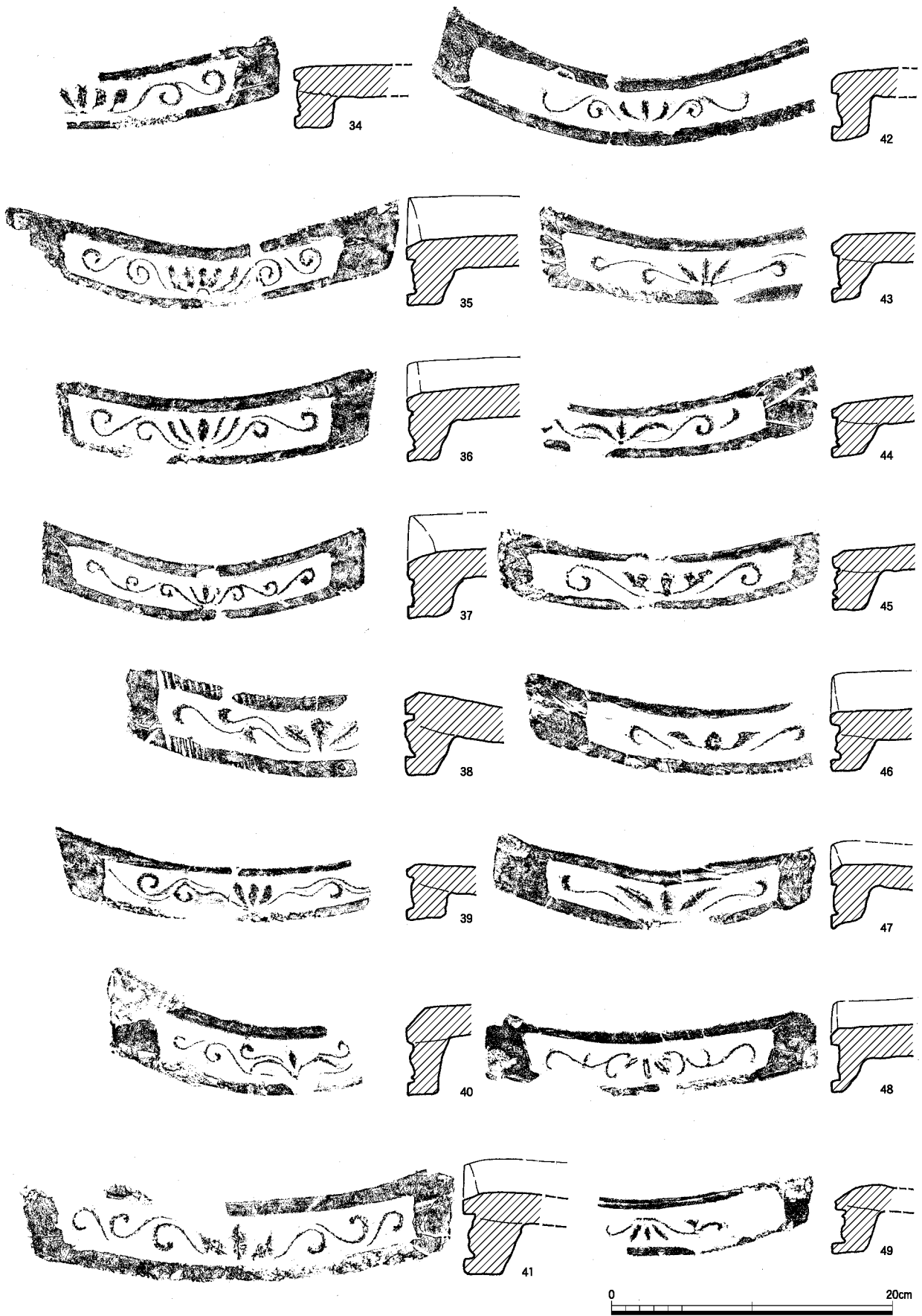


图15 出土軒平瓦拓影·实測图2 (1 : 4)

34 : 10-B類、35 : 11-A類、36 : 11-B類、37 : 12-A類、38 : 12-B類、39 : 12-C類、40 : 13-A類、41 : 13-B類、
42 : 14-A類、43 : 14-B類、44 : 14-C類、45 : 15-A類、46 : 15-B類、47 : 15-C類、48 : 16類、49 : 17類

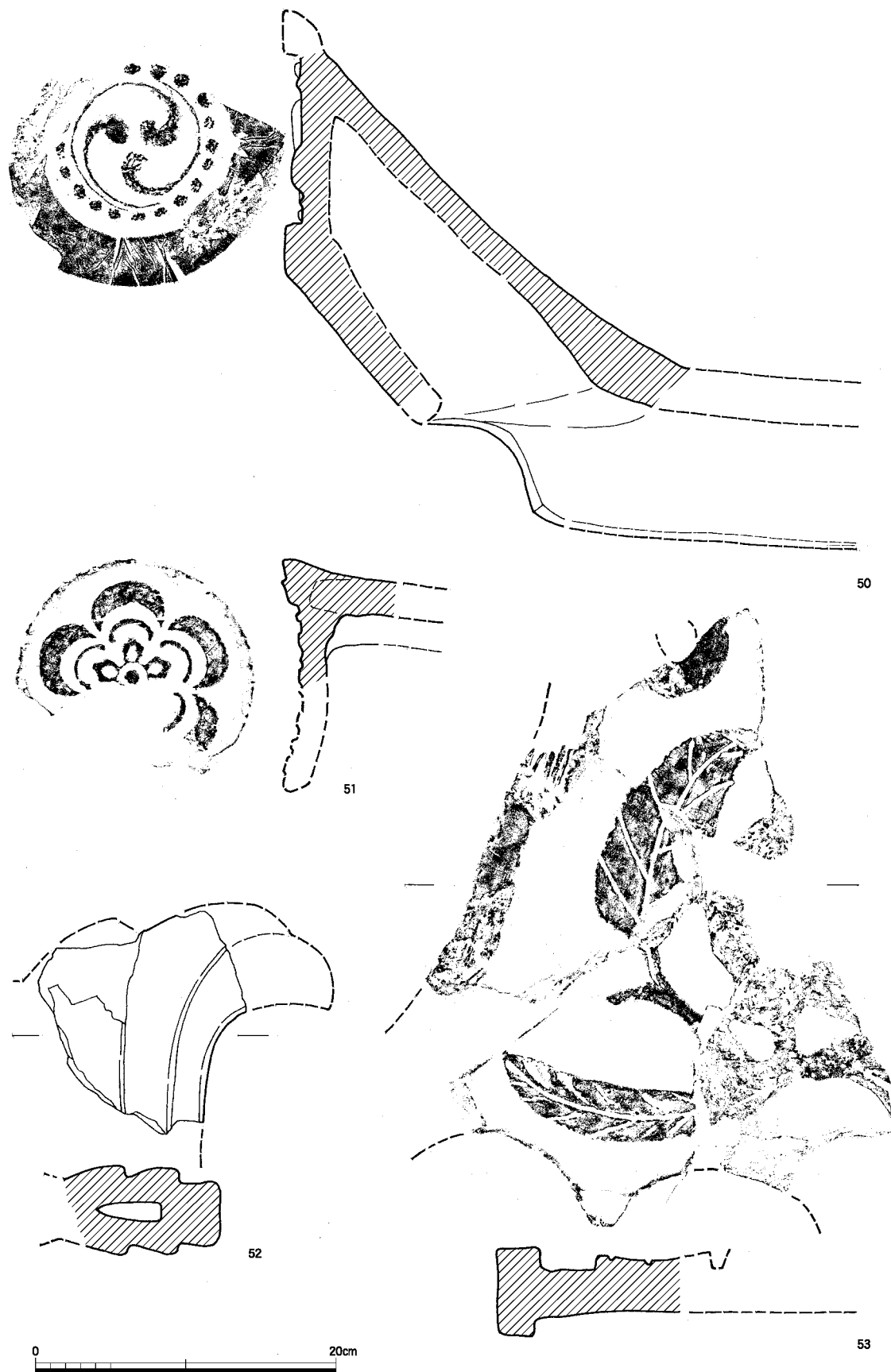


图16 出土道具瓦拓影·实测图1(1:4)

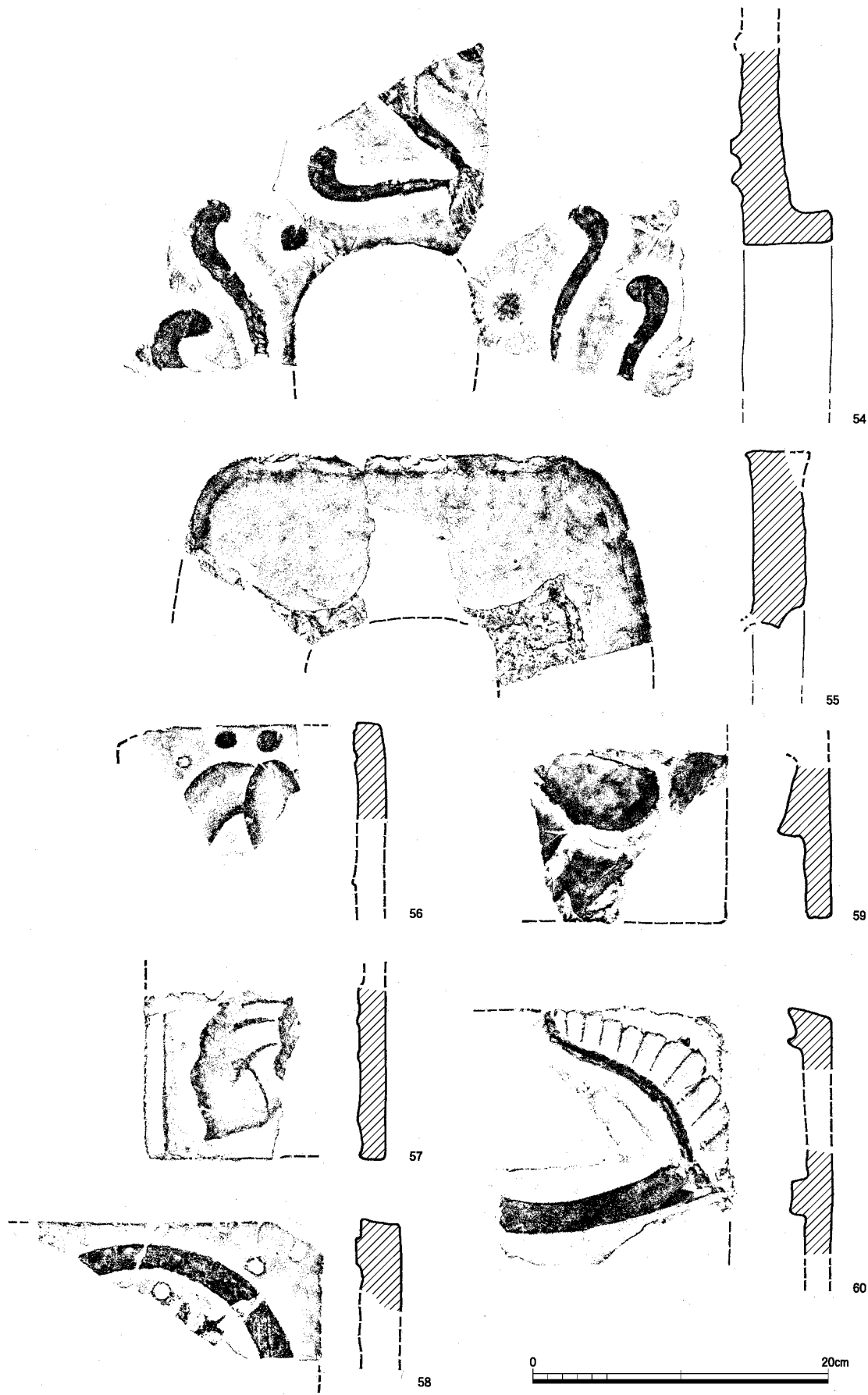


图17 出土道具瓦拓影·实测图2 (1:4)

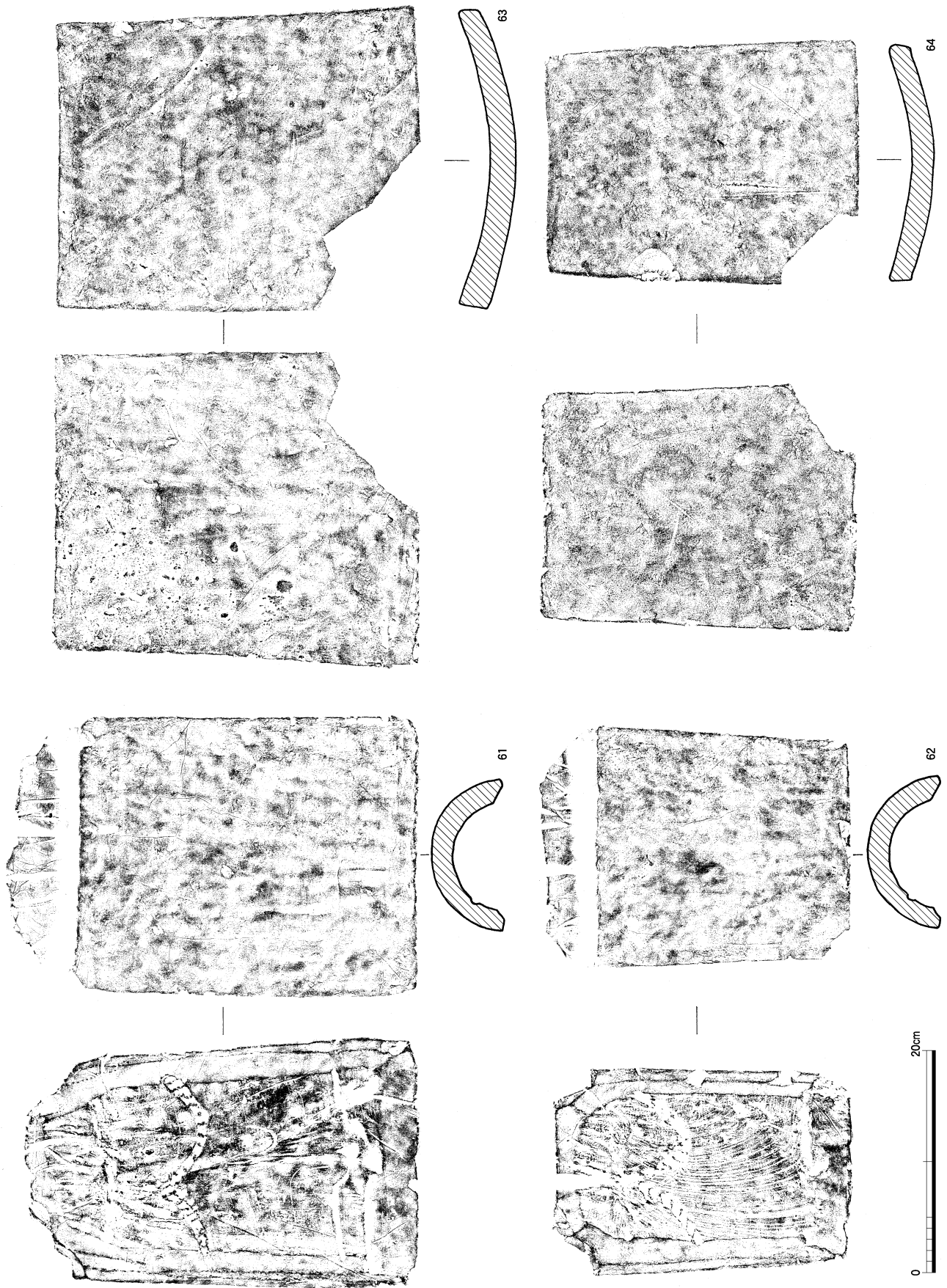


图18 出土丸瓦·平瓦拓影·实测图(1:5)

(3) 堀45出土の土器類 (図19・図版 8)

堀45出土土器類には、土師器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・磁器があり、土師器皿が大半を占める。

土師器には、皿類 (65~77)、鍋、釜 (95)、小型壺 (97) がある。皿類は、小型皿 (65~68、径5.5~6cm・器高1.2cm前後)、中型皿 (69~74、径10~11cm・器高2cm前後)、大型皿 (75~77、径12.5~13cm・器高2cm前後) に分けられる。小型皿と中型皿の一部 (65~71) は、屈曲部内面にくぼみは見られないが、中型皿の大半と大型皿 (72~77) は、屈曲部内面の横ナデが強く、圈線状のくぼみとなる。いずれも褐色から黄橙色の色調を示し、胎土には少量の砂粒を含む。中には口縁端部に煤が付着することから、灯明皿として使用された個体もある (70・73~75・77)。煮沸具には鍋と釜がある。鍋は、体部が半球形で口縁部が外反する。95は胴部に鐳が付く鐳釜である。大和産と推定できる。小型壺 (97) は焼き塩壺として使用されたものである。これと組み合う蓋も出土している。

瓦器には、火鉢・鉢 (102)、甕などが少量ある。102は大型の鉢で、底部は平底である。外面はナデで、内面は粗いヘラミガキを施す。

焼締陶器には、擂鉢 (100・101)、鉢 (96)、壺・甕などがある。擂鉢は備前産 (100) と信楽産 (101) が主体で、丹波産もある。使用により擂り目が磨滅した個体も多い (100)。96は、小型で平底の鉢である。備前産である。壺・甕には備前産・丹波産・信楽産・常滑産がある。

施釉陶器には、皿 (78~83)、大小の椀 (84~86・89~91)、大小の鉢 (93・98・99)、盤・蓋・壺 (94) などがある。皿は、体部・口縁部が湾曲しながら立ち上がるもの (78・79・81・83)、口縁端部内弯し体部内面に鑄を付けるもの (80)、端部が外反するもの (82) がある。高台は、立ち上がるもの (78・82) と、底部内面を削り込むもの (79~81・83) がある。椀には、大型 (84・86・89~91) と小型 (85) がある。口縁部が直立してやや外反するもの (84)、体部・口縁部が内弯するもの (85・89~91)、体部・口縁部が直立するもの (86) がある。鉢には、体部が内弯し口縁部が外反して波状のもの (93)、体部・口縁部に段を持ち口縁部を四方に広げるもの (98)、体部・口縁部が直立し方形入隅のもの (99) がある。高台は、立ち上がるもの (93・98) と、底部内面を削り込むもの (99) がある。壺には、大型のものと小型のもの (94) がある。94は、小型の壺で、口縁部が外反し玉縁状となる。

陶器の釉薬は、灰釉 (79・80・82・90・91・93)、白色釉 (78・81・85・89・98・99)、黒色釉 (83・86)、褐色釉 (84・94) がある。93は口縁部内面の陰刻文様中心のみに緑釉を施す。99は体部外面に鉄釉で文様を描く。陶器の産地は、瀬戸・美濃 (79~81・83~86・93・99) と、唐津 (78・82・89~91・98) があり、瀬戸・美濃産の割合がやや多い。信楽産の施釉壺 (94) は類例が少ない。

磁器には、椀 (87・92)、鉢 (88) がある。椀は、体部・口縁部が湾曲しながら立ち上がり、器壁が薄く口縁端部が外反するもの (87) と、器壁が厚く口縁端部が外上方に延びるもの (92)

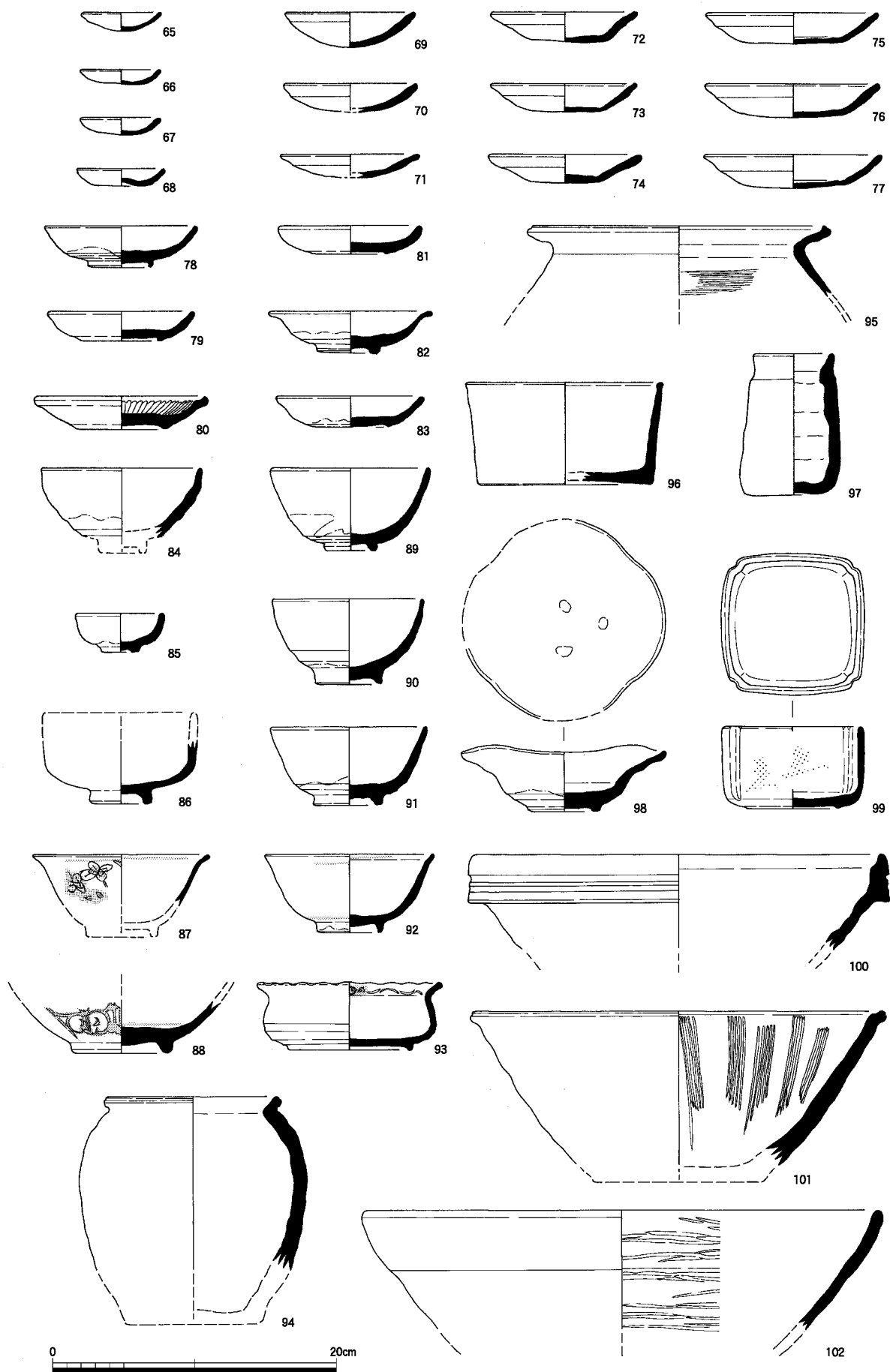


图19 出土土器類実測図(1:4)

がある。いずれも内外面に呉須で文様を描く染付である。磁器類は、すべて中国製で、肥前産は含まれていない。時期は、 期古段階に属する。

5.まとめ

(1) 遺跡について(図20)

今回の調査では、桃山時代の遺構を中心として多数の遺構を検出し、良好な遺物が出土した。

ここでは、周辺の調査成果なども含め、各時期ごとに変遷をまとめておく。

古墳時代から室町時代 今回の調査で出土した最も古い遺物は、古墳時代の土師器・須恵器であるが、遺物はいずれも新しい時期の包含層・遺構に混在して出土し、出土量も少ない。遺構は検出できなかったが、上京中学校内(図20-1)や竜前町(図1-13)など、周辺の調査では弥生時代から古墳時代の遺構が検出されたことから、当調査地付近に当該期の集落が予想される。

平安時代の遺構としては、東西溝61・土塋77などごくわずかである。また、南北溝60は出土遺物が少量小破片のため詳細な時期は特定できないが、平安時代と推定できる。東西溝61は一条大路南築地内溝、溝60は四町東西中軸線上に相当し、当地域にも条坊関連遺構や宅地区画が造られたことが知られる。しかし、宅地内の遺構は桃山時代から江戸時代の大規模な遺構によって、削平されたと推定できよう。

鎌倉時代から室町時代前半の遺構もほとんど見られない。周辺の調査では、鎌倉時代から室町時代前半の遺構が多数検出されるが、平安時代以前の遺構と同様に、ほぼ完全に削平されたと推定できよう。

室町時代後半から桃山時代 室町時代後半の遺構には、土塋39・土塋56・土塋57・土塋81・土塋76などがあり、これ以降次第に遺構の数や遺物の量が多くなる。遺構では、特にゴミ捨て穴と考えられる土塋や、柱穴が多いことが特徴である。この状況は、上京中学校内の調査(図20-1~3)・新町小学校内の調査(図20-6・7)などの周辺調査と同様である。この時期、京都は上京と下京の町組にまとまることが知られ、調査地は上京の町組の南側に含まれ、活況を呈した状況が認められる。

調査地中央で大規模な堀45を検出した。堀は一町の中央東寄りを南北に縦断し、一条通沿いでゆるやかに曲がる。堀は、金箔瓦を含む大量の瓦で一気に埋め戻され、最終的に江戸時代初頭に埋まる。調査地南側で検出した東西堀SD85(図20-3-2)、南北堀SD7b(図20-3-1)、南北堀SK67(図20-1)も同時期であるが、規模や方向が異なり、どのように接続するかは不明な点が多い。堀の掘削時期を示す遺物は確認できないが、聚楽第が破却された文禄四年(1595)頃以前に造られたことは明らかである。また、遺構は明確ではないが、金箔瓦が大量に出土したことから、当地域に聚楽第(1585造営)に伴う大名屋敷が存在したことをうかがわせる。ただ、検出された堀が、屋敷地とどういう関係にあるかは不明である。

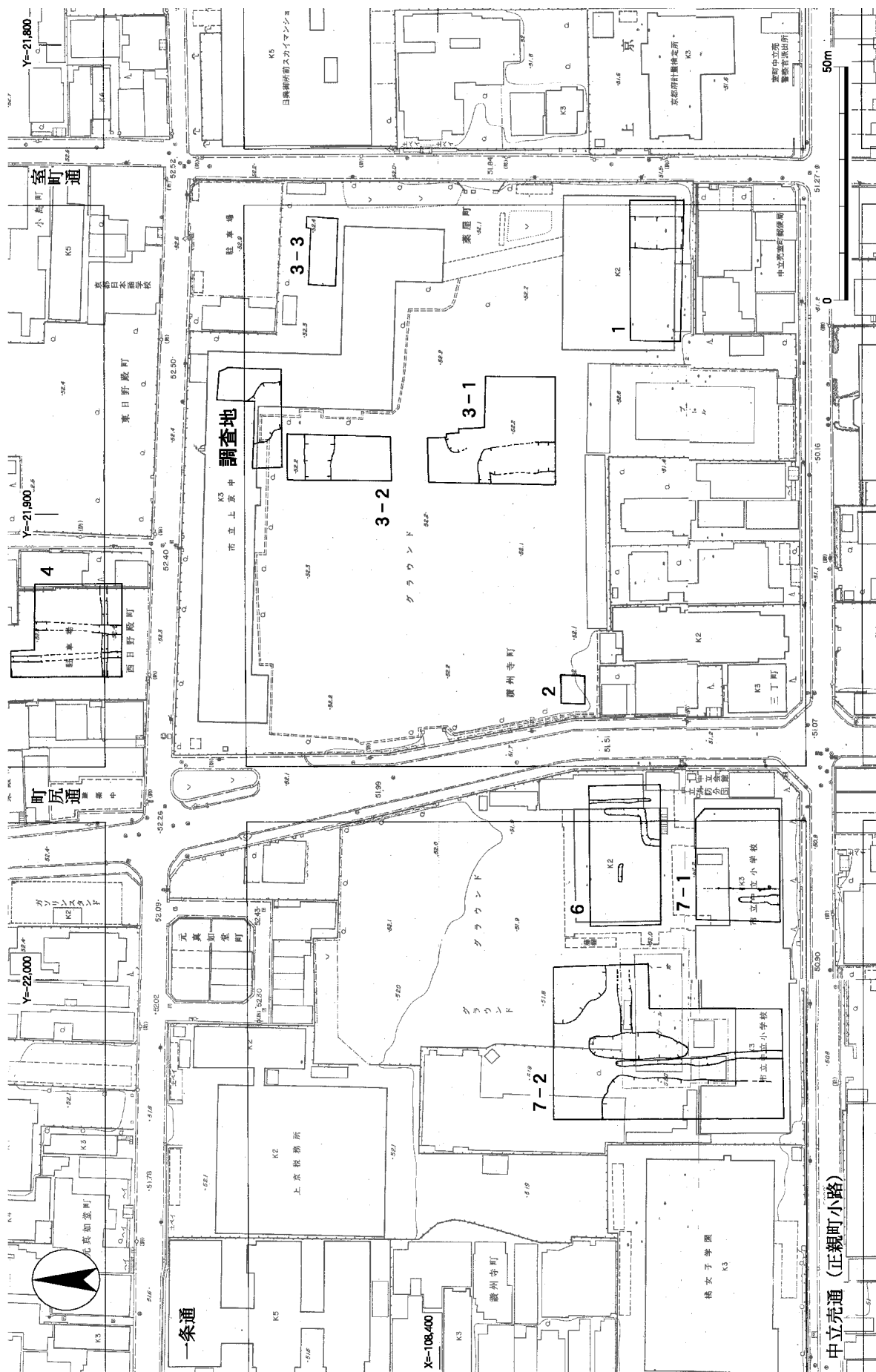


図20 調査地周辺主要遺構配置図(1:1200、室町時代~桃山時代)番号は図1に準ずる。

江戸時代 江戸時代前期になると、堀跡の凹みも最終的に埋められる。第1層は江戸時代頃の整地層と考えられ、平坦な土地が造られ、町屋として整備されたと推定できる。この面で、建物・土壌・石室などが作られ、遺構数・遺物量共に急激に増える。

調査区北部で検出した黄色粘土層は敷地表側の土間のタタキと推定でき、一条通に面した小規模な町屋が想定できる。敷地の奥側には、土壌・石室などが位置している。中立小学校の調査(図20-7-2)では、中立売通に面して小規模な町屋が建ち並んだ景観が想定されたが、調査地でも同様であったと推定できる。

(2) 中世の堀について(図21・表4)

構造 南北堀45は、断面の形状が逆台形で、底部はほぼ平坦である。東西幅は約10m、深さは約1.5mであるが、第2面の遺構面が削平を受けたと考えられ、本来はもう少し深く復元できる。素掘りのままで、石垣などの護岸施設は見られない。底部には堀に直行して東西方向の柱列が造られる。また、埋土には微砂層・粘土層などの、明瞭な水流の痕跡はなく、空堀である。

堀内の柱列は、橋もしくは防御用の遮蔽施設と推定できるが、並列する柱列がないことから、遮蔽のための柵列の可能性が高い。調査区南側の4地点南北堀SD7bでは、堀底部で堀に直行する東西方向の礎石列を2ヶ所で検出し、同様の施設と推定できる。また、2地点堀142、4地点南北堀SD7bでは、堀に沿って大規模な柱列が検出され、堀に沿って柵列が造られていたと想定されている。

分布と時期 調査地周辺では、当該期の堀を10ヶ所検出している。堀の位置は、街路の側溝に沿っているもの(1の東西部分、2、3の北側、5、6のSX102、9)と、街路とは無関係で街区内に位置するもの(1の南北部分、3の南側、4、7、8、10)に大別できる。前者は、後者に比べるとやや規模が大きいものが多い。一方、後者はやや規模が小さく、クランク状に曲がるものや斜方向のものも見られる。また、位置が街区の中軸線にほぼあたるもの(4の1区北側、6のSX101、7、8の南北部分、10の東西部分)もある。

堀の掘削時期は、遺構の性格から明確に確認できるものはないが、埋められた時期は、室町時代末(15世紀頃)のもの(6のSX102)と、桃山時代から江戸時代初頭(16世紀後半から17世紀初頭)のものに分かれる。

室町時代末の堀 6地点の東西堀は、一条通の側溝を踏襲した場所に位置する。堀は、出土した土器などから、応仁・文明の乱(1467~1477)の際に掘削されたと推定され、速く埋められている。応仁の乱の際には、上京の室町殿を中心として、小川以東、烏丸以西、寺之内以南、一条以北に「御構」(1475以降)が造られたと推定され¹⁸⁾、6地点の堀はこれに関係した可能性が高い¹⁹⁾。

桃山時代から江戸時代初頭の堀 当該期の堀は、街路に沿ったやや規模の大きい堀と、街路とは関係なしに位置するやや規模が小さい堀とが組み合っていたと考えられる²⁰⁾。これは、町組全体

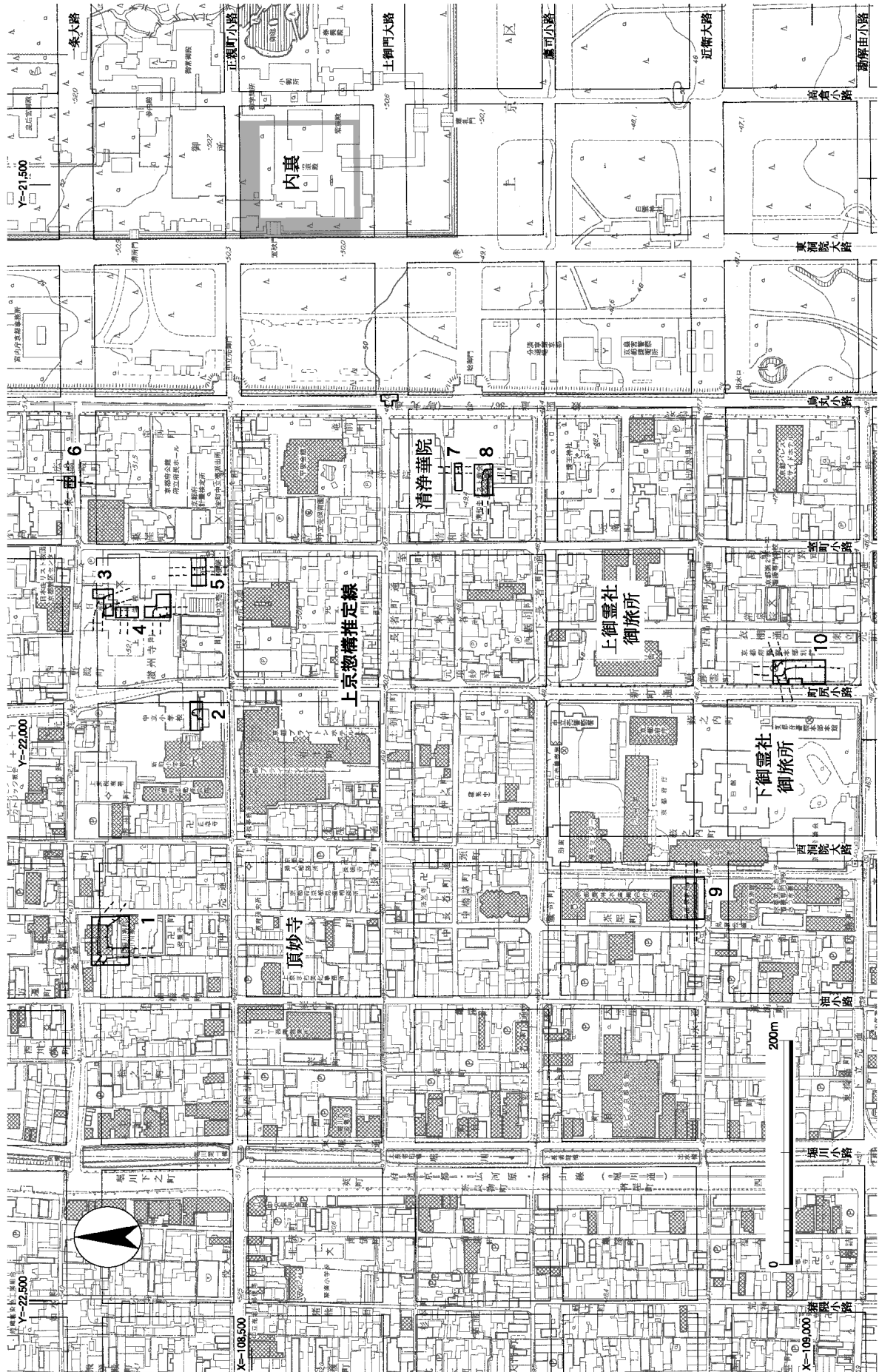


图21 調査地周辺掘検出地点分布图 (1 : 5,000)

表4 調査地周辺堀検出地点一覧表

| No. | 遺跡・推定地 | 調査地 | 調査機関(担当者)、調査期間 | 調査概要・検出堀 | 文献 |
|-----|----------|-----------------------------|--------------------------------|---|--------------------|
| 1 | 北辺二坊八町 | 上京区小川通一条下る小川町(現マンション) | 市埋文(本)、1988.2.10～3.30 | 八町の北西部の調査。L字形の濠(SD103)を検出。幅3～4.55m・深さ1.6～2.47mで、断面逆台形。底面に3ヶ所の段差や凹みがある。この堀に斜方向の溝(SD135・104、幅約2m・深1.8m)が取り付く。壕・溝内の埋没時期は、15世紀末～16世紀後葉である。 | 市埋文1991『昭和62年度市概要』 |
| 2 | 北辺三坊一町 | 上京区中立売通新町西入三丁町457(現新町小学校1次) | 市埋文(辻)、1987.9.1～12.19 | 一町南東部の調査。南北堀(堀142)を検出。2ヶ所で鉤形に曲がる。幅2mで、断面U字形。屈曲部には河原石で石積みを行う。堀の東肩に沿って南北柵列がある。時期は、室町時代後期である。 | 市埋文1991『昭和62年度市概要』 |
| 3 | 北辺三坊四町 | 上京区一条通室町西入東日野殿町(上京中学校4次) | 市埋文(上村・小谷)、2002.6.6～7.30 | 南北方向から北で西に折れ曲がる堀を検出。幅約10m・深さ約1.5mで、断面逆台形である。掘削時期は不明で、埋没時期は江戸時代初頭である。 | 本報告 |
| 4 | " | 上京区一条通室町西入東日野殿町(上京中学校3次) | 市埋文(本)、1988.7.26～10.24 | 四町中央部の調査。1トレンチで東西堀(SD85)を検出。幅5.5～7.7m・深さ3.4mで、堀内に南北方向の瓦積み土塁を構築する。2トレンチで南北堀(SD7b)を検出。幅6m・深さ0.7mで、底部に東西礎石列がある。埋没時期は桃山時代と推定できる。 | 市埋文1993『昭和63年度市概要』 |
| 5 | " | 上京区一条通室町西入東日野殿町(上京中学校1次) | 市埋文(平方・中村)、1980.2.5～3.20 | 四町南東部の調査。南北堀(SK67)を検出。幅8m・深さ1.5mで、断面逆台形。時期は桃山時代である。 | 市埋文1981『一覽』 |
| 6 | 北辺三坊五町北側 | 上京区一条通室町東入広橋殿町400(現虎屋社屋) | 市埋文(石井)、1980.9.1～9.25 | 一条大路北側の調査。北辺三坊五町の北側にあたる。東西方向の堀(SX102)北肩を検出。幅2m以上・深さ1.8～2mである。堀の埋没時期は室町時代後半である。堀(SX102)が埋まった後、南北方向の堀(SX101)が造られる。西肩を検出し、幅3m以上・深さ1.5m以上である。堀の埋没時期は桃山時代～江戸時代である。 | 市埋文1981『一覽』 |
| 7 | 一条三坊九町 | 上京区烏丸通下長者町上る龍前町(私学会館) | 市埋文(前田・会下)、1993.11.4～1994.3.31 | 九町中央部の調査。C区で南北方向の堀(堀8)を検出。幅4.5m・深さ2.3mである。堀の掘削時期は桃山時代で、埋没時期は江戸時代前期頃である。 | 市埋文1996『平成5年度市概要』 |
| 8 | " | 上京区烏丸通下長者町上る龍前町605(現私学会館) | 市埋文(本・平田・木下)、1986.7.7～9.4 | 九町の中央部の調査。L字形の濠(堀19)を検出。幅.5m・深さ約1.5mで、断面U字形、一部は石を積み上げて護岸する。戦国時代から桃山時代である。 | 市埋文1989『昭和61年度市概要』 |
| 9 | 一条二坊十五町 | 上京区西洞院通下長者町下る102(近畿農政局) | 市埋文(平尾・本)、1984.10.24～1985.2.16 | 十四町南辺東側の調査。近衛大路北側溝推定地付近で東西方向の堀を検出。規模不明で、断面は漏斗状である。時期は戦国時代である。 | 市埋文1987『昭和59年度市概要』 |
| 10 | 一条三坊六町 | 上京区新町下立売通上る両御霊町他(京都府警察) | 府セン(森島)、1992.6.22～1993.6.29 | 六町南西部の調査。南北方向で北端でクランク状になるの堀A(幅6～7m・深約2.2m)、斜方向の堀B(幅5m・深約1.4m)を検出した。堀Bの埋没時期は室町時代末(16世紀中葉～後半)で、堀Aは堀Bが埋没した後に造られ、埋没時期は桃山時代(16世紀末)である。 | 府セン1994『府概報59冊』 |

凡例 調査機関・文献は以下のように略した。

市埋文：財団法人 京都市埋蔵文化財研究所、府セン：京都府埋蔵文化財調査研究センター、

『市概要』：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『京都市埋蔵文化財調査概要』

『一覽』：財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覽』

『府概報』：京都府埋蔵文化財調査研究センター編『京都府遺跡調査概報』

を囲むような大きい堀の中に、町や宅地などを囲む分岐した堀が多数造られたと想定することができよう。これらの堀は、掘削時期や存続時期など不明な点も多いが、長期に渡り維持されたものや、短期間で造り替えられたものもあることが分かる。

上京地域では、明応八年（1499）に細川政元が「京中堀」の構築を命じ、天文三年（1534）には上京を取り囲む「総堀」が造られていたことが知られる²¹⁾。また、天文法華の乱（1536）の際にも造られている。検出した堀には柵などが伴っており、このような「構」と呼ばれる施設と推定できる。

当地域には、大名屋敷が造営されているが、屋敷の金箔瓦で埋まった堀（3・4・7・8地点）も多く、それ以前から存続していた堀も確認できる。このことから、大名屋敷を造営する際に、堀を取り込んで造営し、継続して維持・管理が行われた状況が想定できる。

（3）金箔瓦について（図22・表5）

種類と使用方法 今回出土した桃山時代の瓦類の内、軒丸瓦では215点中195点（90.1%）、軒平瓦では186点中159点（85.5%）、鳥衾瓦では5点中4点、薨瓦では3点中3点、鯨瓦では1点中1点、棟端飾瓦では14点中13点、方形飾瓦では18点中18点、不明飾瓦では12点中9点に金箔を押ししている。全体の箔押率は、軒瓦が約88%、道具瓦が90%と、ほぼ全てに箔押しする。丸瓦・平瓦・面戸瓦では、箔押したものは全く見られない。

このことから、金箔瓦は屋根の強調したい軒先や棟部分を金色で縁取りするために使用しており、平安時代の緑釉瓦の使用法とよく似ている。

製作技法 箔押し手法は、箔押し予定範囲に漆を塗り、その上に金箔を押し、余分の箔を取り除いたと復元できる。箔押し範囲は、軒瓦・鳥衾瓦・薨・飾瓦などの文様凸部上面と周縁上面、鯨瓦は全面で、地の部分には押さない。軒平瓦周縁の両側は、葺き上げた際に軒丸瓦に隠れるため、原則として箔押ししない。

下地の漆は、基本的に透漆を髹漆するが、赤色漆のものも少量ある。赤色漆を髹漆した種類は、軒丸瓦1-D類（2点中2点）・4-E類（5点中4点）、軒平瓦10-A類（13点中11点）・13-B類（1点中1点）・15-A類（8点中8点）であり、文様とほぼ対応する。周縁上面の金箔は、幅3cm程度の大きさのものを並べて使用する。

瓦当文様が多様であるにも関わらず、箔押し範囲や箔押し手法が均一であることから、各瓦屋で生産された製品を漆工房（箔屋）に搬入し、髹漆・金箔押しされたことを示唆している。

時期 金箔瓦の出土状況は、いずれも2次的な堆積であり、伴出土器類からの時期の特定はできない。ただ、出土地などから考え、豊臣秀吉の有力家臣の屋敷内の建物に使用されたと推定され、豊臣秀吉が聚楽第を造営した天正十四年（1586）から、破却した文禄四年（1595）の約10年間に限定できよう。

分布 調査地周辺における、金箔瓦出土地は40ヶ所（表5）で、分布範囲は聚楽第推定範囲を除くと、おおむね北側が一条通、東側が烏丸通、南側が三条通、西側が堀川通内に散在する。

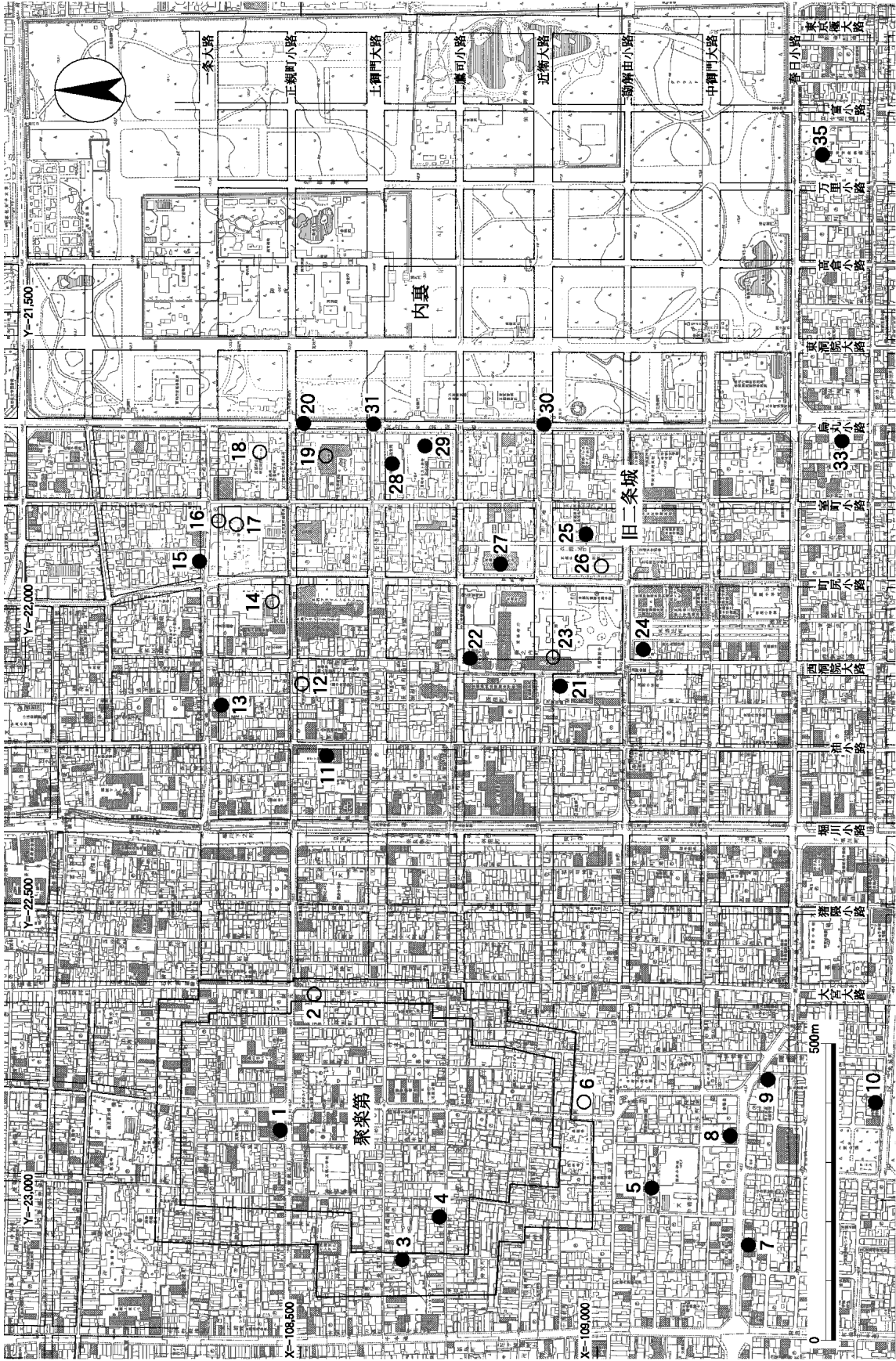


图22 調査地周辺金箔瓦土地点分布図 (1 : 10,000)

表5 調査地周辺金箔瓦出土地点一覧表

| No | 遺跡・推定地 | 調査地 | 調査機関(担当者)、調査期間 | 調査概要・出土状況 | 金箔瓦 | 備考・文献 |
|----|----------|-------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|--------------------------|
| 1 | 平安宮(主殿寮) | 上京区中立売通智恵光院西入多聞町 | 聚楽第跡発掘調査団(江谷)、1976 | 聚楽第北東部の調査。出土遺構不明。 | 軒丸瓦・軒平瓦。個数不明。数量不明。 | 聚楽第調査団1977『聚楽第跡発掘調査報告』 |
| 2 | 平安宮(内教坊) | 上京区大宮通中立売通下る和水町(現西陣ハローワーク) | 府セン(森島)、1991.11.19～1992.2.28 | 聚楽第東辺部の調査。東側濠から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・小菊・輪違瓦・飾瓦・鬼瓦・獅子口・熨斗瓦。千数百点。 | 府セン1993『府概報54冊』・『府情報49号』 |
| 3 | 平安宮(總殿寮) | 上京区土屋町通上長者町下る山王町 | 市埋文(前田)、1980.6.3～6.24 | 聚楽第西辺部の調査。出土遺構不明。 | 軒丸瓦1 | 市セン1981『平安京報告昭和55年度』 |
| 4 | " | 上京区下長者町浄福寺西入新御幸町 | 市埋文立会(辻・家崎)、1977.7.13～7.15 | 聚楽第西辺部の調査。出土遺構不明。 | 軒平瓦。数量不明。 | 市埋文1995『平安宮Ⅰ』 |
| 5 | 平安宮(内裏) | 上京区浄福寺通下立売下る中務町(出水小学校) | 市埋文試掘(辻)、1996.11.18～12.6 | 聚楽第南西部の調査。出土遺構不明。 | 鬼瓦1。 | 市埋文1998『平成8年度市概要』 |
| 6 | 平安宮(内酒殿) | 上京区日暮通下立売上る分銅町556(出水団地) | 市埋文(辻・丸川)、1995.10.30～1996.5.31 | 聚楽第南辺部の調査。土取穴から出土。中村邸で使用したと推定。 | 軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦・鬼瓦。30点。 | 市埋文1997『平成7年度市概要』 |
| 7 | 平安宮(中務省) | 上京区丸太町通千本東入中務町 | 市埋文(辻)、1989.10.12～11.21 | 出土遺構不明。 | 軒平瓦3。 | 市埋文1994『平成元年度市概要』 |
| 8 | 平安宮(西院) | 上京区日暮通丸太町上る西院町 | 市埋文(木下)、1977.7.25～8.12 | 井戸から出土した。 | 軒丸瓦・軒平瓦。数量不明。 | 市埋文1995『平安宮Ⅰ』 |
| 9 | 平安宮(主水司) | 上京区丸太町智恵光院西入西院町(丸太町ビル) | 市埋文(本)、1977.6.19～7.13 | SK7から出土。 | 軒丸瓦1・軒平瓦3。 | 市埋文1978『概報集1978-II』 |
| 10 | 平安宮(宮内省) | 上京区竹屋町通千本東入主税町 | 市埋文(田中)、2001.7.30～8.30 | 溝7から出土した。 | 軒丸瓦4・軒平瓦2・菊丸瓦2・鬼瓦1。 | 市埋文2002『平成13年度発掘概報』 |
| 11 | 北辺二坊六町 | 上京区油小路通中立売下る甲斐守町(西陣電話局) | 市埋文(磯部・中村)、1978.10.16～12.29 | 六町北東部の調査。瓦溜から出土した。 | 種類不明。数量不明。 | 市埋文1981『一覽』 |
| 12 | 北辺二坊七町 | 上京区中立売通小川東入三丁目(京都府教育研究所) | 府セン(竹井)、1981.9.8～10.30 | 七町北東部の調査。落込み遺構SX09・11から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・飾瓦。30点。 | 府セン1982『府概報3冊』 |
| 13 | 北辺二坊八町 | 上京区小川通一条下る小川町(現マンション) | 市埋文(本)、1988.2.10～3.30 | 八町北東部の調査。土壙SK32から出土。 | 軒丸瓦1・飾瓦1。 | 市埋文1991『昭和62年度市概要』 |
| 14 | 北辺三坊一町 | 上京区中立売通新町西入三丁目457(現新町小学校2次) | 市埋文(鈴木・山本)、1995.6.23～1996.1.12 | 一町南東部の調査。土壙228・800から出土 | 軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦・鬼瓦・飾瓦・面戸瓦・鯺瓦。650点。 | 市埋文1997『平成7年度市概要』 |
| 15 | 北辺三坊四町 | 上京区一条通室町西入西日野殿町(現同仁病院駐車場) | 古代文化調査会(家崎)、1991.9.17～12.4 | 四町北側一条大路の調査。出土遺構不明。 | 種類・数量不明。 | 未報告 |
| 16 | " | 上京区一条通室町西入東日野殿町(上京中学校4次) | 市埋文(上村・小谷)、2002.6.6～7.30 | 四町北辺部の調査。堀45から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・鳥衾瓦・棟端飾瓦・鯺瓦・方形飾瓦。402点 | 本報告 |
| 17 | " | 上京区一条通室町西入東日野殿町(上京中学校3次) | 市埋文(本)、1988.7.26～10.24 | 四町中央部の調査。東西濠SD85及び周辺土壙SK7・8から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦・鬼瓦。約300点。 | 市埋文1993『昭和63年度市概要』 |
| 18 | 北辺三坊五町 | 上京区烏丸通中立売上る龍前町590(現府民ホールアルティ) | 府セン(辻本・伊野・石井)、1986.10.1～1987.6.6 | 五町南中央部の調査。石室・井戸・溝などから出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・熨斗瓦・垂木先瓦。数量不明。 | 府セン1988『府概報27冊』 |
| 19 | 北辺三坊六町 | 上京区烏丸通上長者町上る竜前町(現平安会館) | 府教委(平・奥村・伊野)、1978 | 六町中央部の調査。出土遺構不明、園池か。 | 軒丸瓦31・軒平瓦23・熨斗瓦・垂木先瓦・鬼瓦。 | 府教委1980『府概報1980-3』 |
| 20 | 北辺三坊七町 | 上京区烏丸通中立売下る竜前町・御苑町(烏丸線No.2) | 烏丸線(大矢)、1974.6.28～7.26 | 七町北西部の調査。土壙2から出土。 | 軒丸瓦・熨斗瓦。5点。 | 烏丸線1979『年報Ⅰ』 |

| No. | 遺跡・推定地 | 調査地 | 調査機関(担当者)、調査期間 | 調査概要・出土状況 | 金箔瓦 | 備考・文献 |
|-----|---------|--------------------------------|-------------------------------------|--|------------------|-----------------------|
| 21 | 一条二坊十四町 | 上京区西洞院通下立売上る西大路町(府庁西) | 府セン(小池)、1992.12.8～93.12.22 | 十四町東側の調査。土壌169・108などから出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・飾瓦。個数不明。 | 府セン1989『府概報63冊』 |
| 22 | 一条三坊二町 | 上京区下立売通新町西入藪之内町(京都府庁職員福利厚生棟) | 府セン(辻本)、1990.8.7～1991.1.14 | 二町北西隅・西洞院大路の調査。二町内の土壌SK227・井戸SE93から出土。 | 軒丸瓦3・飾瓦1。 | 府セン1991『府概報45冊』 |
| 23 | 一条三坊三町 | 上京区下立売通新町西入藪内町(京都府総務部) | 府セン(伊野)、1988.1.5～8.11 | 近衛大路・西洞院大路交差点の調査。三町北西隅瓦溜SX104・106から出土。 | 軒丸瓦10・軒平瓦4・飾瓦52。 | 府セン『府概報33冊』 |
| 24 | 一条三坊四町 | 上京区釜座通下立売下る東裏辻町(上京消防署) | 市埋文(丸川)、1997.8.4～11.7 | 四町北西部の調査。池100他から出土。 | 種類・数量不明。 | 市埋文1999『平成9年度市概要』 |
| 25 | 一条三坊六町 | 上京区衣棚通下水下る常泉院町(赤十字病院看護婦寮) | 市埋文(木下)、1981.7.1～7.22 | 六町中央部の調査。出土遺構不明。 | 軒丸瓦。数量不明。 | 市埋文1983『昭和56年度市概要』 |
| 26 | 〃 | 上京区新町下立売通上る両御霊町他(京都府警察) | 府セン(森島)、1992.6.22～1993.6.29 | 六町南西部の調査。堀A・土壌62他から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦・輪違瓦・飾瓦。 | 府セン『府概報59冊』 |
| 27 | 一条三坊七町 | 上京区新町通下長者町下る御霊町(地方検察庁) | 鳥羽研(杉山・長宗・前田)、1975.7.15～9.25 | 七町西部の調査。出土地不明。 | 軒丸瓦2・鬼瓦2・鬼瓦2。 | 鳥羽研1976『概報集1976』 |
| 28 | 一条三坊九町 | 上京区烏丸通上長者町下る龍前町(KBS京都放送会館) | 古代学(渡辺・南)、1979.1.10～5.31 | 九町北部中央の調査。包含層から出土。 | 軒丸瓦2・鬼瓦2。 | 古代学1983『平安京報告10輯』 |
| 29 | 〃 | 上京区烏丸通下長者町上る龍前町(私学会館) | 市埋文(前田・会下)、1993.11.4～1994.3.31 | 九町南東部の調査。出土遺構不明。 | 種類・数量不明。 | 市埋文1996『平成5年度市概要』 |
| 30 | 一条三坊十五町 | 上京区烏丸通出水御苑町・桜鶴町(烏丸線No44・X-2) | 烏丸線、1976.4.21～5.25 1977.1.10～2.3 | 近衛大路・烏丸小路交差点の調査。溝1・溝状遺構1から出土。 | 軒平瓦1・軒丸瓦1。 | 烏丸線1980『年報Ⅱ』 |
| 31 | 一条三坊十六町 | 上京区烏丸通上長者町御苑町(烏丸線No16) | 烏丸線(永田)、1975.4.2～4.4 | 土御門大路・烏丸小路交差点の調査。溝1から出土。 | 軒丸瓦1。 | 烏丸線1979『年報Ⅰ』 |
| 32 | 二条二坊五町 | 中京区二条通堀川西入二条城町(二条城倉跡) | 市埋文(辻)、1981.8.4～11.9 | 五町南西部の調査。出土遺構不明。 | 軒丸瓦。数量不明。 | 市埋文1983『昭和56年度市概要』 |
| 33 | 二条三坊十町 | 中京区烏丸通丸太町下る大倉町(ホテルハーヴェスト) | 市埋文(山本・磯部)、1991.5.13～10.4 | 十町東北部の調査。江戸時代の土壌から出土。 | 軒丸瓦・軒平瓦。個数不明。 | 市埋文1995『平成3年度市概要』 |
| 34 | 二条三坊十四町 | 中京区烏丸通夷川上る少将井町(烏丸線No59) | 烏丸線、1977.1.27～3.14 | 十四町南東隅部の調査。包含層から出土。 | 軒丸瓦・鬼瓦・飾瓦。個数不明。 | 烏丸線1980『年報Ⅱ』 |
| 35 | 二条四坊十町 | 中京区丸太町通柳馬場東入四丁目(京都地方裁判所) | 市埋文(山本・上村)、1997.9.12～1999.1.26 | 十町南西部の調査。土壌から出土。 | 軒丸瓦2・軒平瓦2。 | 市埋文2001『平安京左京二条四坊報告書』 |
| 36 | 三条三坊十三町 | 中京区烏丸通三条上る場之町(NTT) | 市埋文(鈴木・辻)、1991.9.2～1992.6.15 | 十三町中央西側の調査。出土遺構不明。 | 軒丸瓦。個数不明。 | 市埋文1995『平成3年度市概要』 |
| 37 | 〃 | 中京区烏丸通二条上る蔭絵屋町(烏丸線No29) | 烏丸線(永田)、1975.8.18～9.17 | 土壌あるいは包含層から出土。 | 飾瓦1。 | 烏丸線1979『年報Ⅰ』 |
| 38 | 三条三坊十六町 | 中京区烏丸通二条下る秋野野町(烏丸線No19) | 烏丸線(永田)、1975.5.15～6.21 | 包含層から出土。 | 種類不明。個数不明 | 烏丸線1979『年報Ⅰ』 |
| 39 | 三条四坊四町 | 中京区三条通東洞院東入曇華院前ノ町(白水三条ビル) | 京都文化財団(植山・山田)、1988.2.2～6.27 | 出土遺構不明。 | 軒平瓦1。 | 京都文化財団1988『研究報告第2輯』 |
| 40 | 六条三坊十六町 | 下京区烏丸通万寿寺上る五条烏丸町・御供石町(烏丸線No43) | 烏丸線、1976.5.28～7.6 | 包含層から出土。 | 軒丸瓦1。 | 烏丸線1980『年報Ⅱ』 |

凡例 調査機関・文献は以下のように略した。

市埋文：財団法人京都府埋蔵文化財研究所、府セン：財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、府教委：京都府教育委員会、烏丸線：京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会、古代学：古代学協会『市概要』、『京都市埋蔵文化財調査概要』、『府概要』、『京都府遺跡調査概報』、『協会報告』、『古代学協会館編』、『年報』、『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡発掘調査年度報告』、『一覧』、『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧』

ただ、大量に出土した地点は、12(京都府教育研究所、30点)・14(新町小学校2次、650点)・16(上京中学校4次、402点)・17(上京中学校3次、300点)・18(アルティ、不明)・19(平安会館、50点)と、23(京都府庁総務部、66点)・26(京都府警察本部、不明)の二つに大きく分かれる。前者は中立売通(正親町小路)の北側および南側で、油小路通から烏丸通の間に集中し、後者は北側は出水通(近衛大路)・南側は下立売通(勘解由小路)・西側は西洞院通・東側は室町通の範囲である。このことから、この地域に金箔瓦が使用できるほどの有力大名の屋敷街が営まれたことが明らかとなった。各地点での金箔瓦の出土状況については、今回調査と同じく2次的な堆積のものが多く、使用建物は特定できていない。

また、金箔瓦の家紋によって、大名屋敷の位置の特定が試みられているが、²²⁾同一家紋の軒丸瓦が数ヶ所で出土することや、この地域に屋敷を構えることができるとは考えられない小大名の家紋の瓦が見られ、この方法が必ずしも有効であるとはかぎらない。

註

- 1) 山田邦和「左京」『平安京提要』角川書店 1995年。
- 2) 京都市埋蔵文化財研究所編『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年。
- 3) 中村 敦・磯部 勝「左京北辺三坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年。
- 4) 本 弥八郎「左京北辺三坊」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1993年。
- 5) 古代文化調査会による発掘調査。未報告。京都市埋蔵文化財調査センター梶川敏夫氏の教示による。
- 6) 京都市埋蔵文化財研究所編『京都市内遺跡試掘立会調査概報』昭和61年度 京都市文化観光局 1987年。
- 7) 辻 裕司「左京北辺三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1991年。
鈴木廣司・山本雅和「左京北辺三坊」『平成7年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1997年。
- 8) 平安博物館による発掘調査。未報告。京都市埋蔵文化財研究所編『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年。
- 9) 高橋美久二「内膳町遺跡発掘調査概要」『埋蔵文化財発掘調査概要 1974』京都府教育委員会 1974年。
- 10) 伊野近富「平安京左京北辺三坊五町」『京都府遺跡調査概報』第27冊 京都府埋蔵文化財調査研究センター 1988年。
- 11) 関西調査会による発掘調査。未報告。梶川敏夫氏のご教示による。
- 12) 2)と同じ。
- 13) 平 泰久・奥村清一郎・伊野近富「平安京跡(左京内膳町)昭和54年度」『埋蔵文化財発掘調査概報 1980』第3分冊 京都府教育委員会 1980年。

- 14) 鳥羽離宮跡調査研究所による発掘調査。未報告。京都市埋蔵文化財研究所編『京都市域における埋蔵文化財の発掘・試掘・立会調査一覧』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年。
- 15) 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会編『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報』～京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年。
- 16) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年。
- 17) 瓦の観察については、以下の文献を参考にした。
京都市埋蔵文化財研究所編『木村捷三郎収集瓦図録』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年。
小林謙一・佐川正敏「平安時代～近世の軒丸瓦」『伊珂留我』10号 法隆寺昭和資材帳調査概報 小学館 1989年。
山崎信二『中世瓦の研究』奈良国立文化財研究所学報第59冊 奈良国立文化財研究所 2000年。
- 18) 高橋康夫『京都中世都市史研究』 思文閣出版 1983年。
- 19) 山本雅和「京都の戦国時代」『戦国時代の考古学』 2003年。
- 20) 山本雅和「中世京都の堀について」『研究紀要』第2号 (財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年。
- 21) 18)と同じ。
- 22) 森島康雄「聚楽第と城下町」『豊臣秀吉と京都 - 聚楽第・御土居と伏見城 - 』 日本史研究会編 文理閣 2001年。

参考文献

図22の作成の際、聚楽第・二条新造御所については、以下の文献を参考にした。

- 馬瀬智光「平安宮跡・聚楽第跡 27・60」『京都市内遺跡試掘調査概報』平成9年度 京都市文化市民局 1998年。
- 杉森哲也「江戸時代の聚楽第跡」『豊臣秀吉と京都 - 聚楽第・御土居と伏見城 - 』 日本史研究会編 文理閣 2001年。
- 川上 貢「將軍義昭の武家御城と織田信長の二条新造御所」『リーフレット京都』 121 (財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館 1999年。
- 高橋康夫『京都中世都市史研究』 思文閣出版 1983年。

圖 版

報 告 書 抄 録

| ふりがな | へいあんきょうさきょうほくへんさんぼうよんちょうあと | | | | | | | |
|--|--|---------------|---------------|-----------------------|--------------------|---|-------|------------|
| 書名 | 平安京左京北辺三坊四町跡 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 2002-9 | | | | | | | |
| 編集者名 | 上村和直 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 所在地 | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1 | | | | | | | |
| 発行所 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2002年9月30日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| へいあんきょうさきょうほくへん 平安京左京北辺 さんぼうよんちょうあと 三坊四町跡 | きょうとしかみぎょうく 京都市上京区 いちじょうどおりむろまちにしいる 一条通室町西入 ひがしひのどのちょう 東日野殿町 395・396 | 26100 | | 35度 01分 22秒 | 135度 45分 37秒 | 2002年6月 6日～2002 年8月7日 | 約182㎡ | 校舎新築 工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 平安京左京北辺 三坊四町跡 | 都城跡 | 室町時代 | 土壇・溝 | 土師器・陶器・磁器 | | 桃山時代から江戸 時代の大規模な堀 を検出。桃山時代 の金箔瓦が大量に 出土した。 | | |
| | | 桃山時代 | 土壇・堀・柵・柱 穴 | 土師器・陶器・磁器、 瓦、砥石・石臼 | | | | |
| | | 桃山時代 ～江戸時代 | 土壇・柱穴・石室 | 土師器・陶器・磁器 | | | | |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-9

平安京左京北辺三坊四町跡

発行日 2002年9月30日

編集
発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961